

外国語活動認定の制度化と「筑波式統合言語学習」の推進 最終報告書（3年目）

令和3年度（2021.4～2022.3）  
教育戦略推進プロジェクト支援事業

# 外国語活動認定の制度化と 「筑波式統合言語学習」の推進

最終報告書（3年目）

筑波大学  
グローバルコミュニケーション教育センター

令和4年3月

筑波大学  
グローバルコミュニケーション教育センター (CEGLOC)

# 目 次

1. 本プロジェクト事業の総括に寄せて .....	1
	白山利信
<b>【活動報告】</b>	
2. 「優れた外国語活動」認定制度化の実現 .....	11
	白山利信
3. 活動報告（英語） アカデミックライティングサポートデスク（AWS）の設置準備 .....	33
	井出里咲子・ン レイション・磐崎弘貞
4. 活動報告（英語） Report on EMI activities at the University of Tsukuba .....	37
	Murod ISMAILOV, Yukiko YAMAMOTO
5. 活動報告（ドイツ語） オンライン授業に関する FD とゲーテ・インスティトゥート試験.....	39
	畔上泰治・ルーデ マルクス・茅野大樹
6. 活動報告（フランス語） フランス語圏の留学促進のための教職員セミナー .....	41
	ジャクタ ブルノ・シャー 勝間田 マハディ
7. 活動報告（日本語） 初級会話データベース型日本語教育コンテンツ「にほんごアベニュー」の 開発.....	49
	小野正樹・伊藤秀明・ヴァンバーレン ルート・文昶允・チョーハン アヌブテ
8. 活動報告（ロシア語） 2021 年度「学群教育用設備整備等事業」の支援によるロシア語対面授業の 試行実施について .....	53
	白山利信
<b>【報告資料】</b>	
9. 令和 2 年度学群 1 年次及び 3 年次対象 TOEIC®Listening&Reading IP テスト （オンライン）の実施結果について〔報告資料 1〕 .....	55
10. 令和 3 年度学群 1 年次対象 TOEIC®Listening&Reading IP テスト （プレイスメントテスト）の実施結果について〔報告資料 2〕 .....	57

11. 令和3年度学群3年次対象 TOEIC®Listening&Reading IP テスト（オンライン） の実施結果について〔報告資料3〕 .....	67
12. 令和3年度学群4学類（医学類、生物学類、生物資源学類、国際総合学類）3年次 対象の実施結果について〔報告資料4〕 .....	73
13. 令和2年度 筑波大学 TOEIC®Listening&Reading テスト集計データ 〔報告資料5〕 .....	74
14. 令和3年度 筑波大学 TOEIC®Listening&Reading テスト集計データ 〔報告資料6〕 .....	75
15. 令和2年度 国立大学 TOEIC®Listening&Reading テスト集計データ 〔報告資料7〕 .....	76
16. 令和2年度 国立大学 TOEIC®Listening&Reading テスト大学専攻・学年別 受験者数と平均スコア〔報告資料8〕 .....	77
<b>【参考資料】</b>	
17. 外国語による授業を履修した学生の割合〔参考資料1〕 .....	78
18. 大学入学後の英語力の変化について〔参考資料2〕 .....	79

## 本プロジェクト事業の総括に寄せて

白山 利信

### 1 事業の目的・特徴・成果

2019年度に「教育戦略推進プロジェクト支援事業」として採択されたグローバルコミュニケーション教育センター（以下、CEGLOC）の「外国語活動認定の制度化と「筑波式統合言語学習」の推進」は、3年目の最終年度を迎えた。このプロジェクトの目的は2つある。ひとつは、学生の主体的な学びを実現するための支援として、外国語活動認定のしくみを確立することである。具体的にはCEGLOC科目の成績評価や外国語検定試験のスコア、海外語学研修、海外インターンシップ、通訳ボランティア、交換留学などの活動実績を優れたグローバルコミュニケーション活動として認めた証明書である「優れた外国語活動」認定証を発行する学内制度を導入・実施することである。ふたつ目は、世界的な人材育成拠点として、質の高い言語教育を実施する体制を確立するために、「筑波式統合言語学習」の内実化の具体的方法を模索し、学生の総合的な言語コミュニケーション能力を高める教授法研究・学習法研究を推進することである。

ひとつ目の目的は、無事に達成された。本年度に「優れた外国語活動」認定制度を構築し、その運用を開始した。その内容や手続きなどの詳細は、本書の【活動報告】の「2. 優れた外国語活動」認定制度の導入について」を参照されたい。学生たちには、自身の言語学習動機を高める契機として、専門分野の研究や知識・思考などを深める活動の一環として、また就職活動などのキャリア支援に役立てる武器として、この制度を大いに利用してもらいたいとと考えている。

ふたつ目は、未だ模索中であり、道半ばという状況である。しかし、「筑波式統合言語学習」の内実化に向けたCEGLOC担当教員の問題意識は、この3年間で大きく変わった感がある。CEGLOCは、その言語教育の最大の特徴、すなわち、外国語教育（英語、初修外国語）、日本人学生の国語教育、留学生の日本語教育の三者を切り離して捉えるのではなく、それらの相互の連携を意識した言語教育を通して、学生の学術的・社会的な言語運用能力を伸長させることを志向するトライリンガル教育を重視している。英語教育の中で、日本語や初修外国語との比較・対照という視点を盛り込むことを奨励し、国語教育と<sup>1</sup>、外国語とし

---

<sup>1</sup> 従来の国語教育では日本人学生を対象としていたが、本学における正規課程における留学生比率が少しずつ高まりつつある中で、また非常に高度な日本語運用能力を持つ留学生が入学してくる例が見られる中で、CEGLOC国語部門は、留学生を対象とする日本語教育を扱う日本語教育部門との連携・協力を視野に入れて、留学生をも対象とした国語教育のあり方を模索し始めている。

での日本語教育<sup>2</sup>において、英語や初修外国語<sup>3</sup>とを比較・対照する視点を重視している。特に、初修外国語教育で、英語や日本語の表現形式との比較・対照を取り入れることがすでに常態化していることを指摘しておかねばならない。このような言語の3点観測ともいうべき複数言語の視点の重要性を学生たちに意識させ、学生自身の言語学習の過程で、3つ以上の言語の特性を対比する、あるいは統合する思考作業を促すことで、各言語の奥に隠された思考形式や文化形態の特性における相違点や共通点等への気づきが生まれるのである。その気づきの深化が言語現象のみならず、自身を取り巻く多様な現象や事象を複眼的に認知する力をさらに育むものと思われる。そのトライリンガル学習を通じた認知力の鍛錬は、学生自身のメタ認知力を向上させ、学術的な思考の洗練化にも寄与し得ると筆者は考えている。その意味で、教員による複数言語の視点を取り入れた教授法が、学生の言語学習に対する物の見方、感じ方、考え方に重層性と柔軟性を与えるという学習効果を生み出すものと思われる。

## 2 学生の英語力強化施策と現状分析

令和3年度も、本プロジェクトの活動の一環として、1年次と3年次における外国語能力検定試験（TOEIC-IP L&R）の受験を促進した。第3期中期計画のKPIである90%以上の受験率は令和2年度にすでに達成している。報告資料1に示されているように、令和2年度1年次で98.4%、3年次で90.5%の受験率であった。令和3年度の外国語能力検定試験（TOEIC-IP L&R）の受験率は1年次で99.4%（報告資料2を参照）、3年次で95.6%（報告資料3）であった。特に3年次で95%を超えた受験率は驚異的だと言ってよい。教育担当副学長、すべての学群・学類長、関係の支援室、教育推進室、CEGLOCの教職員が一丸となって受験率向上に真剣に取り組んだ結果であると考えている。当該業務に携わったすべての皆さまに対して衷心より御礼・感謝申し上げたい。

また今年度は、TOEIC-IP テストの新たな試みとしては、4学類限定であるが（医学類、生物学類、生物資源学類、国際総合学類）、3年次生に対して、リスニングとリーディングに加えて、スピーキングとライティングの習熟度を測定する4技能試験を特別に行った。医学類生は3年次生全員（138名）が受験し、生物学類（21名）、生物資源学類（16名）、

---

<sup>2</sup> 日本語教育部門では、新しい時代に対応したオンライン教材の開発に力を入れている。その中で、教材の多言語化を図り、多様な学習者のニーズに応えるとともに、複数言語学習の可能性をも視野に入れた教材づくりを目指している。

<sup>3</sup> 初修外国語では、海外ロシア語研修を中央アジアのカザフスタン共和国やキルギス共和国で実施している。前者の国はチュルク系言語のカザフ語が国家語、印欧語族スラヴ語派のロシア語が公用語、後者の国はチュルク系言語のキルギス語が国家語、印欧語族スラヴ語派のロシア語が公用語であるバイリンガル国家である。これらの国では、英語の知識だけでは日常生活にも困る社会状況が存在するので、ロシア語と現地語（基幹民族語）の一定の知識が必要不可欠である。そこで、ロシア語、現地語、英語、日本語の4言語の対照が可能な基礎語彙集の作成に取り組んでいる。

国際総合学類（11名）は希望者のみが受験した。計186名が受験したが、極めて興味深いデータ結果を得ることができた。報告資料4のプロットデータが示しているように、TOEIC-IPテストの主宰団体である国際ビジネスコミュニケーション協会が独自にリスニングとリーディングのスコアを集積したデータ資料に基づいて算出された、スピーキングとライティングの予測される獲得スコアのラインに対して、スピーキングのスコアが顕著に低いことが判明した。それに対して、ライティングのスコアが、予測されるスコアのラインよりも明白に高い傾向を示すことが分かった。この事実は、被験者の学生たちが思考した内容を書き言葉として表現する、文章化する能力が非常に優れており、潜在的に高い発信力を備えている可能性が高いことを示している。一方、スピーキング力が極端に低いという傾向は、即興的な口語能力を十分に獲得していないことを暗示している<sup>4</sup>。ポイントは、スピーキング力を向上させることで、相対的に高いレベルで4技能のバランスに優れた力を発揮できる可能性があるということである。ひとつの仮説として、スピーキング力の向上に資する言語トレーニングを課す施策を戦略的に推進することで、英語を使った専門的な教育・学修活動においてペアワークを行う、グループワークを行う、教室内で議論する、国際会議でプレゼンをする、議論をする、国際ビジネスの会議や打ち合わせの現場などで討議する、意見を述べる、ブレインストーミングする、シビアな交渉する、などの活動の土台をなす双方向のコミュニケーション能力を高めることができるのではないかと考えられる。今後、リスニングとリーディングの2技能のスコアの経年的なデータの積み上げだけでなく、スピーキングとライティングを加えた4技能のスコアの蓄積が不可欠だと思われる。スピーキング力に資する学修活動を活性化することで、他の3技能への相乗効果も生まれる可能性もある。

令和2年度のデータになるが、本学の3年次生を中心としたTOEIC-IPテストのリスニングとリーディングの平均獲得スコアは（報告資料5を参照）、国立大学のそれと比べると（報告資料7を参照）、リスニングもリーディングも大きく上回っている。リスニングの国立大学の平均スコアが284.7点であるのに対して、筑波大学の平均スコアは302.7点であり、18点上回っている。リーディングの国立大学の平均スコアが236.7点であるのに対して、263.7点で27点上回っている。総得点も国立大学の平均スコアが521.4点であるのに対して、566.5点で45.1点上回っている。国立大学の専攻別の平均スコア（報告資料8を参照）と比較しても、語学・文学系の平均スコア（英語系が672点、英語専攻以外が631点）と国際関係学系（626点）よりは下回るものの、また医・薬学系の平均スコア（565点）がほぼ同じ程度であるものの、それ以外の分野では（情報科学系－482点、商学・経済・経営系－522点、法学系－541点、社会学系－518点、理・工・農学系－489点、教育教養系－495

---

<sup>4</sup> おそらく本学の学生のみならず、全国の数多くの大学の学生にも当てはまり、同様の傾向を示すことが予想される。

点) 本学の平均スコアの方が高い。筑波大生のリスニングとリーディングの英語力は、国立大学の中では相対的に大きく上回っていると結論づけられる。

報告資料 6 に示されているように、令和 3 年度のデータの、本学の 3 年次生を中心とした TOEIC-IP テストのリスニングとリーディングのトータルスコア分布を見ると、非常に興味深い点が見えてくる。750 点以上のスコアを獲得している割合が 25%であり、30%が目前である。730 点のスコアが日本の民間企業における海外駐在員に求められる得点基準であること考えると、全体の 4 分の 1 は極めて高い英語のリスニング力とリーディング力を兼ね備えていると言える。これに相応のスピーキング力が加われば、即戦力の人財ということになる。700 点以上のスコアを獲得している割合で見ると、34%となり、3 割を超える。700 点から 750 点までの層の学生を鍛え上げることができれば、750 点以上のスコア獲得者の比率を 3 割以上にすることは決して到達できない目標ではなく、現実味のある目標である。さらに 600 点以上のスコアを獲得している層の比率は 55%に達する。つまり、600 点から 750 点までの層に対する英語力強化施策を実効性のある形で具体的に打ち出すことができれば、民間企業の海外駐在員レベルの英語力を持つ、現役筑波大生が 5 割を超えるという状況を生み出すことも可能である。その意味で、4 技能を総合的に強化する科目、さらに、各技能の強化に特化した科目、つまり、スピーキング力、ライティング力、リスニング力、リーディング力の強化にそれぞれ注力した科目を選択自由科目として開講していくことも必要ではないかと考えられる。4 技能を総合的に強化する科目としては、外部専門講師を雇う形で、現在、「TOEFL Practice I」「TOEFL Practice II」「TOEFL Practice III」を開講している。こうした科目の履修学生を増やしていくことがまずは大切である。各技能の強化に特化した科目では、英語セクションのマンパワーを考慮しながら、選択自由科目のバリエーションを確保していく努力が不可欠である。

参考資料 1 は、教学マネジメント室 IR が、学群学生の 1 年次の TOEFL-ITP のスコアと 3 年次の TOEIC のスコアを経年分析し、大学入学後の英語力の変化について考察したものである。レベル上昇者が 343 人 (18%)、レベル低下者が 341 人 (18%) いることが明らかになった。また CEFR の A2 と B2 のレベルに相対的に多くの学生が位置していることも判明した。参考資料 2 も教学マネジメント室による分析結果であるが、本学の外国語による授業の履修比率を男女別に 1 年次から 4 年次までの経年変化を明らかにしたものである。いずれのデータも今後の英語力強化のための教育施策などに役立つと思われるデータ分析結果である。このように CEGLOC がデータを提供し、教学マネジメント室 IR が分析する。そして、分析結果について、双方の関係教職員で議論し、意見を交わす過程でさらに分析を深めたり、次の調査に関わるアイデアや着眼点を発掘する取り組みを進めている。このようなデータ重視、エビデンス重視の英語発信力強化活動にも注力していきたいと考えている。

本年度、学生たちの、学術目的のテキストを自立的に書く力を伸ばすことを支援する

Academic Writing Support Desk（以下、AWSD）を設置し、スタートさせた。現在、学群学生を対象に、ニーズの把握に努めながら、試行的に無理のない範囲で活動を進めている。学群生のみならず、大学院生を対象とした活動に広がる予想も立てられている。令和4年度から本格的な業務運営に移行する予定である。詳しくは、【活動報告】の「3. 活動報告（英語） アカデミックライティングサポートデスク（AWSD）の設置準備」を参照されたい。将来的に、AWSD が学生のライティング力向上のために大きな力を発揮することが期待される。

また、学ぶ側の学生への支援だけではなく、英語で授業を行う教育に対する支援も不可欠である。現在、磐崎弘貞外国語教育部門長と外部講師（株式会社アルク専属講師）が教員のための全学FD研修会「英語で効果的に授業を行うために」を年に4回実施している。このFD研修を通じて、CLIL（Content and Language Integrated Learning）授業の教授法（専門教育と英語教育を組み合わせた教授技法）を用いた、英語による質の高い専門教育の普及・拡大を目指している。さらに、今年度から専門教育を英語で行うEMI（English Medium Instruction）の講演会を実施し、EMI研修の実施を目指して、EMI研究者のCEGLOCの外国人教員（英語）であるISMAILOV Murod 助教が準備をしており、令和4年度に開始する見込みである。

また令和5年度に、クラウド管理型の、新しい時代に対応したe-learning教材の導入に向けた準備と議論を、外国語教育部門の英語セクションを中心に進めている。この教材は、これまでのe-learning教材と同様に、学生のみならず、教職員の利用も射程に入れている。その意味で、全学の英語対応力向上にも資することができると期待されている。

以上のように、CEGLOC は、外国語教育部門を中心として、学生たちの総合的な英語運用能力の向上、英語発信力強化のための様々な施策を、創意工夫を重ねながら、ダイナミックに展開している。

### 3 第4期中期目標・中期計画のポイント

令和4年4月1日から令和10年3月31日までの6年間、第4期中期目標・中期計画がスタートする。「法人の基本的な目標」の冒頭で、「筑波大学は我が国における大学改革の先導者であることを強く意識し、建学の理念に基づき、あらゆるボーダーを越え、研究教育の多様な分野で世界を牽引し、海外の有力大学に比肩する競争力を実現する」と宣言している。さらに、具体的な目標のひとつとして、「3.世界から多様かつ優秀な学生を受け入れるとともに、幅広い最先端の研究成果に裏打ちされ、学生の個性と能力を開花させる教育手法を確立し、主体性・社会性を基盤として未来を創り出す力を生涯にわたって養い、世界で活躍できる人材を育成する」と高らかに謳っている。

CEGLOCの活動に関連するところでは、中期目標の「I 教育研究の質の向上に関する事項」の「2 教育」の「5 学生の海外派遣の拡大や、優秀な留学生の獲得と卒業・修了後

のネットワーク化、海外の大学と連携した国際的な教育プログラムの提供等により、異なる価値観に触れ、世界で活躍できる人材を養成する」に対応する中期計画は、「14 日本人学生の英語コミュニケーション力、外国人学生の日本語によるコミュニケーション力を向上させ、学術的な専門力と汎用力を鍛え、特色を生かした多様な短期・長期の教育プログラムによって国内外のアカデミア、産業界等、多様な社会で活躍できる人材を養成する【指定国構想】」である。そこでは、さらに評価指標として、以下の2つが記載されている。

21 本学または海外大学の単位取得を伴う海外留学（武者修行プログラム等）を行う学生を令和9年度（2027年度）末までに2,000人／年にする（オンラインによる履修も含む）。

22 外国人留学生（正規学生）における日本語教育科目受講者の割合を令和9年度（2027年度）末までに25%にする（単位修得の有無に関わらない。また、オンラインによる履修を含む）。

21 の評価資料については、CEGLOC 開設の特設自由科目の海外語学研修などの実施や「優れた外国語活動」認定制度などによる海外留学の奨励<sup>5</sup>を通じて目標達成に貢献することが求められる。

22 の評価資料については、日本語教育部門が総力を上げて達成しなければならない案件である。特に、今後、コロナ禍が収束して、正規生の留学生数が回復し、さらにその人数が増加に転じた場合には、留学生数の母数が増え続けることが予想され、日本語教育科目受講者数もそれに合わせて増やしていかなければならない。その意味で、留学生数の急激な増加に対する対応策を今のうちから十分に準備していく必要がある。

いずれにしても、本学の海外留学させる派遣学生数の増加に貢献する活動や事業を強化していくとともに、外国人留学生の日本語教育科目受講者数を増やすための制度設計や開設科目の工夫などを行うことも大切である。

最後に、「外国語活動認定の制度化と「筑波式統合言語学習」の推進」プロジェクトは、本年度で終了するが、CEGLOC としての言語教育改革は、大学の要請、学生の要請、社会の要請に応える形で今後も続いていく。そうした弛みない改革を柔軟に進めていくためにも、全学共通科目教育を担う外国語教育部門（英語セクション、初修外国語セクション）、日本語教育部門、国語部門の三者が互いの課題を共有・理解しながら、一層連携・協力関係

---

<sup>5</sup> コロナ禍の収束を見越して、CEGLOC のフランス語担当教員であるジャクタ・ブルノ助教が中心となり、今年度、人文社会系、国際室、グローバルcommons、SGU、学生交流と協力して、『筑波大生のためのフランス語圏留学ハンドブック』（2022、グローバルコミュニケーション教育センター）の電子版を刊行した。CEGLOC ホームページ（外国語教育部門 フランス語）の以下の URL から誰でもダウンロードができる。  
[https://www.cegloc.tsukuba.ac.jp/data/doc/1644396682\\_doc\\_126\\_0.pdf](https://www.cegloc.tsukuba.ac.jp/data/doc/1644396682_doc_126_0.pdf)

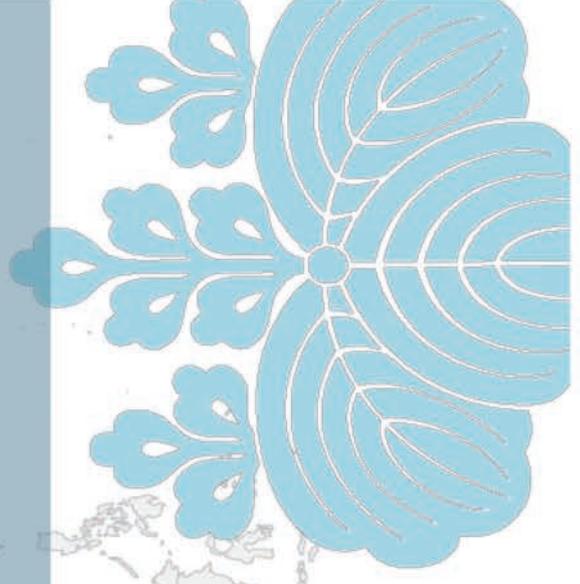
を強化していくことが求められる。参考までに、前 CEGLOC 長の磐崎弘貞教授、日本語教育部門の小野正樹 CEGLOC 副センター長・部門長、国語部門の石塚修部門長と協議を重ね、永田恭介学長、清水愉前教育担当副学長、加藤光保現教育担当副学長のご指導とご助言を得ながら、作成し、修正を重ねた CEGLOC 言語教育改革案（ポンチ絵）を次頁に掲載したい。

2021.07.19

# CEGLOC 言語教育改革案 (TILL)

Tsukuba Integrated Language Learning

筑波大学  
CEGLOC



# CEGLOC 言語教育改革 (TILL) のビジョン

## 【大学の要請、学生の要請、社会の要請に応える言語教育】

- ① アカデミックスキルを高める言語教育
- ② キャリア支援としての実践的な言語教育

英語・日本語(留学生)  
 国語・初修外国語

Discussion  
 Presentation  
 Writing  
 Critical Reading  
 Negotiation

◎ CEGLOC 学士課程教育による言語発信力の向上 English Boot Camp, Presentation, Discussion

◎ 学群の CLIL 教育強化のための継続的なサポート CLIL FD, Academic Support Desk

◎ SGU 等のグローバル人材教育の支援・協働 海外語学研修, 外部検定試験

英語による共通・  
 留学生増に  
 専門教育の普及施策  
 対応した日本語教育  
 (研究・生活・就職)

英語と日本語によ  
 る専門教育の確立  
 トライリンガル  
 教育の強化  
 (日本語/国語・英語・  
 初修外国語)

グローバル(トライリン  
 ガル)人材を育成する世界  
 標準の英語と日本語による  
 教育・研究のサポート  
 継続・強化

## 教育研究の英語化

## 日本語教育の充実

### 日本人学生の国語力の強化

英語の脱必修化? 新しい業務(調整)	新しい業務(調整)	新しい業務(調整)
専任39(英16,初10,日8,国5)兼(英18,初17,日1,国1) 日:8360名 留:1440名(5%)	専任39(英6,初10,日18(10日/英),国5)兼(英16,初17,国1) 日:7040~7480名 留:2300~2740名(15~20%)	専任12(日/英)(調整)
第3期 ~2021 CLIL化率 数%	第4期 2022~ CLIL化率 10%	第5期 2028~ CLIL化率 15%
第5期 2034~ CLIL化率 20%	第6期 2034~ CLIL化率 20%	第7期 2040~ CLIL化率 25~30%



# 「優れた外国語活動」認定制度化の実現

白山 利信

## 1 令和2年度までの進捗状況（検討の最終段階）

昨年度は、令和2年度教育戦略推進プロジェクト支援事業「外国語活動認定の制度化と「筑波式統合言語学習」の推進」の一環として、「優れた外国語活動」認定の客観的な評価の考え方<sup>1</sup>と個々の活動の点数化、さらに総合的点による具体的な基準についてのアイデアをまとめた。

まず点数化については、以下の4点である。

- ①CEGLOC 開設の応用的科目（特に TOEFL など外部検定試験の準備のために開講されている科目、初修外国語及び外国語としての日本語の応用科目）の成績の活用：  
A+→1点
- ②CEFR に準拠して開発された検定試験の成績（TOEFL iBT、TOEFL ITP、TOEIC L&R、TOEIC L&R IP と CEFR との対応関係表）の活用：  
B2 レベル相当のスコア→2点  
B1 レベル相当のスコア→1点
- ③留学・海外研修  
4ヶ月～1年の期間→2点  
概ね3ヶ月未満の期間→1点
- ④その他の活動の参加・受賞：  
海外インターンシップ参加→1点  
通訳ボランティア参加→1点  
外国語・日本語弁論大会での受賞→2点  
外国語・日本語弁論大会の参加→1点

さらに、総合点を相対化し、総合点で5点を優秀賞認定、3点を努力賞認定とし、7点以上については、最優秀賞認定という区分を設ける可能性を示唆した。

## 2 「優れた外国語活動」認定制度の導入の実現

今年度は、上記の内容を踏まえて、「優れた外国語活動」認定制度の導入の目的、対象言

---

<sup>1</sup> 言語能力を統一的な基準で判定できる「ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）」を客観的な評価基準とし、学習年数の長い英語で、B2 レベルを2点、B1 レベルを1点、学習年数の短い初修外国語でA2 レベルを2点、A1 レベルを1点とする配点案を考案した。

語、認定基準と点数、認定のカテゴリー、認定の手続きなどの具体的な内容について、CEGLOC 企画調整部門会議及び運営委員会で審議・検討を重ねた。その結果、令和4年1月5日に、昨年度考えていた外国語活動の個々の内容と評価基準など、実施に必要な項目すべてを発展的に洗練し、精緻化した「優れた外国語活動」認定制度が承認され、無事にスタートした。

「優れた外国語活動」の下位分類である「検定試験」については、CEFRのCAN-DOリストの各区分のスコアに一定の幅が存在すると考え、最高で5点まで付与できるようにし、1～2点、3～4点、4～5点のように評価の柔軟性を担保した。「海外留学・海外研修」については、受入れ先大学・機関での履修科目の成績証明書や研修内容の概要書、参加を証明する書類の提出を義務付けることにした。「海外インターンシップ」と「通訳ボランティア」については、1ヶ月未満か以上で線引きをし、前者に1点、後者に2点を配点することにした。さらに具体的な活動内容等を証明する書類の提出を義務付けた。「外国語・日本語弁論大会」に関しては、受賞を優勝・準優勝と入賞に細分化し、それぞれ3点と2点を配分し、参加のみの1点とで配点に差をつけた。また3ヶ月以上に及ぶ「外国語によるチューター」の活動を新たに追加した。以上の活動の分類で「優れた外国語活動」の内容をほぼカバーできると予測している。それでも予期せぬ内容の活動が提示される可能性がある。その点も考慮して、「その他の活動」という項目を設けた。ここでは、活動の多様性と評価の柔軟性を一定の程度担保できるような工夫を施し、活動内容の質・量など総合的な観点から1点から3点までの幅を持たせて配点した。

「認定のカテゴリー」という項目では、特に学生の就職活動での活用や学生の言語学習のモチベーションの向上を意識して、「最優秀賞認定」(7点以上)、「優秀賞認定」(5～6点)、「奨励賞認定」(3～4点)と3つに分けた。

「認定の手続き」については、年度末に時期に入っていたため、今年度については、常設的な委員会活動としての「優れた外国語活動」審査委員会の設置は、見送ることにした。その代わりに、今年度はCEGLOC企画調整部門会議が同審査委員会(委員長はCEGLOC長)を兼ねる形で、学生たちの申請に対応することとした。次年度以降は、CEGLOC社会貢献委員会が審査機能を担うことにしている。常設的な委員会として、社会貢献・「優れた外国語活動」認定審査委員会が認定審査を行い、そこでの審査結果についてCEGLOC運営委員会でも承認を得ることとした。将来的には、運営上の合理性などを勘案して、CEGLOC運営委員会では審議・承認を行わず、報告のみを行うことも視野に入れている。

学生が「優れた外国語活動」認定を申請するために必要な手続きとしては、以下の3つの書類、すなわち、

(1)必要事項を記入した「優れた外国語活動」認定申請書、

(2)当該認定のために作成された4つの表、すなわち、

表1 活動内容の評価基準と点数

表2 認定対象となる各外国語の検定試験(1)

表3 認定対象となる各外国語の検定試験(2)

#### 表4 CEFRに基づく言語能力の熟達度別の到達目標

を参照して準備した、「優れた外国語活動」の認定基準に基づく得点表（自己採点表）、  
(3)認定に係る自身の活動を証明する書類

を CEGLOC（事務室）に提出することとした。

「優れた外国語活動」認定を受けた学生たちには、認定証（賞状）を授与し、表彰することとした。認定証（賞状）については、活動内容をその裏面に記載したタイプと表面に記載したタイプの2種類を用意し、学生がどちらでも好きなタイプを選べるように配慮した。現時点では賞状による顕彰のみで、賞品の贈呈などは考えていない。

### 3 「優れた外国語活動」認定制度の学内周知

令和3年12月1日に CEGLOC 企画調整部門会議において「優れた外国語活動」認定制度の導入が審議され、承認を得た。それを受けて、同日行われた CEGLOC 全体会議で、「優れた外国語活動」認定導入に至る目的・経緯・活動などについて、CEGLOC 担当教員及び職員全員に詳細に説明し周知した。さらに令和3年12月14日に開催された第7回学群教育会議において、報告事項として全学の教育組織長に対して、「優れた外国語活動」認定制度の導入について公表し、各学群・学類の学生たちに対する周知を依頼した。CEGLOC 運営委員会の審議・承認を経て、令和4年1月5日に CEGLOC として「優れた外国語活動」認定制度を正式に発足させた。

学内向けの広報活動を軌道に載せるため、CEGLOC センターホームページ管理委員会（広報委員会、吉野修委員長）を通じて、ホームページに「優れた外国語活動」認定制度の概要説明をアップし、手続き書類がダウンロードできる体制を整えた。特にホームページのトップページ上で、目立つように「募集！ 「優れた外国語活動」認定」のクリック「ボタン」(<https://www.cegloc.tsukuba.ac.jp/>)を作成し、学生が必要情報にアクセスし易いよう、工夫を凝らした。

### 4 令和3年度の「優れた外国語活動」認定申請及び認定の実績

「優れた外国語活動」認定制度を開始して、3ヶ月名に入っているが、これまでに以下の3名の学生から申請があり、CEGLOC 企画調整部門会議を審査委員会として、令和4年2月17日に3名の活動を慎重かつ厳格に審査し、認定するという結論を出した。

1. 岸原 港 医学類6年 英検1級合格、IELTS 7.5、仏検準2級合格、海外研修4ヶ月未満（ILSC）他
2. 西田直人 情報メディア創成学類4年 CEGLOC 開設の応用的科目の成績（6科目 A+）、実用英語検定1級合格、ロシア語能力検定3級、海外研修（サンクトペテルブルグ大学、カザフ国立大学）、外国語によるチューター（ロ

シア語)、全国ロシア語作文コンクール参加、2019年度日露青年フォーラム参加、トライリンガルデーでのポスター発表他

3. 横山海青 情報理工学位プログラム1年 OSS joycons-rs 無料公開ソフトウェアを英語で無料公開・対応。国際会議 INTER ACT2021 で、英語による口頭発表、学術会議での英文の発表(第1著者)

岸原さんと西田さんについては、活動内容の豊富さと質などを審査委員会として総合的に判断した結果、「最優秀賞認定」との評価となった。横山さんについては、活動の質を判断するために、①横山さんが登壇・発表した国際会議の趣旨と②その社会的位置づけ、さらに③論文の社会的位置づけを確認するために詳細な説明を改めて求めた。その結果、①については、「INTERACT は、HCI(ヒューマンコンピュータインタラクション)と呼ばれる分野の国際会議の一つです。すべての人々の日常生活にテクノロジーを効果的に役立てるための研究に関する発表を取り扱っており、幅広いバックグラウンドを持つ専門家が世界中から集まる」、②については、「INTERACT 2021 の Full Paper Track の採択率は 29%であり、HCI系の会議の中でも準トップカンファレンスと言って差し支えない立ち位置にある」、③については、横山さんの「論文は、ゲーム用のコントローラを用いた高速な文字入力手法の提案と評価に関するもので」あり、「提案内容は、ゲームの操作の快適さを増すのはもちろんエンターテインメントの世界を広げる可能性を持っている」との説明は、一定の説得力を持っていることに加え、学生の自発的な活動を積極的に評価することが本制度の趣旨に合致していることから、審査委員会として「優れた外国語活動」と認定できると判断した。一方、学群生と大学院生の認定基準について、同一で良いのか否か、あるいは国際会議発表などの活動については配点に差を設けるなどの修正等が必要か否かを令和4年度以降に検討することを確認し、具体的な詳細の検討は、社会貢献・「優れた外国語活動」認定審査委員会に委ねることとした。

## 5 結びに

令和元(2019)年度に始まった教育戦略推進プロジェクト支援事業「外国語活動認定の制度化と「筑波式統合言語学習」の推進」の最終年度である今年度に、本学学生の「優れた外国語活動」の認定制度を実現することができた。本当に喜ばしい限りである。

この制度化の実現には、平成30年度の当該事業「外国語科目の統一的成績評価基準の確立と筑波言語ディプロマの創設」以前の活動の土台と蓄積があったことは、指摘しておかなければならない。特に平成30(2018)年度を持って定年退職された武井隆道元教授の功績は非常に大きい。武井先生の構想が「優れた外国語活動」認定制度の淵源となったことは疑いない事実である。また、令和2年度を持って同じく定年退職された久保田章名誉教授(当時外国語教育部門長)のご尽力にも言及しなければならない。久保田先生によって、昨年度、「優れた外国語活動」認定制度の認定基準と点数化などが詳細に検討され、体系的な整理が行なわれたことが、本年度の制度化の完成へと導いた。武井先生と久保田先生のご貢献に対

して、記して心から感謝申し上げたい。さらに、本年度を持って定年退職される畔上泰治教授には、ゲーテ・インスティトゥート東京と連携・協力して、武井先生時代から長年にわたって実施してきたドイツ語検定試験の受験支援事業を引き継ぎ、実績を積み上げてこられたことに対して、衷心より深謝申し上げたい。

「優れた外国語活動」認定制度の実現に協力して下さった、CEGLOC の外国語教育部門（英語セクション、初修外国語セクション）、日本語教育部門、国語部門の先生方、そして職員の皆さまにも心から感謝申し上げたい。

最後に、本学の学生が、本制度を活用し、外国語活動を通じて、英語、初修外国語、日本語、英語・初修外国語・日本語以外の多様な言語学習に取り組み、言語コミュニケーション能力を高め、発信力を強化する契機となることを期待したい。そして、卒業後、修了後の人生においても、言語コミュニケーション能力を磨き続け、日本と世界の調和ある発展に寄与する有為なグローバル人財になってもらいたいと念願している。

参考までに、「優れた外国語活動」認定制度に係る資料を次頁以降に掲載する。



## 「優れた外国語活動」認定制度の導入について

目的： 本学の言語教育改革の一環として、学生(学群生、院生)の主体的な学びを実現するための支援として、外国語に関する学生の自主的な取り組みの実績全体を評価し、「優れた外国語活動」として認定する。

意欲ある学生たちに対する「優れた外国語活動」認定を通じて、本学が目指すグローバル人材育成に貢献するとともに、学生の外国語発信力の強化と、外国語学修及び外国語活動への動機づけの向上を目指す。さらに、就職活動のアピールポイントとして活用する。

対象言語： 英語、初修外国語(ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮語)、外国語としての日本語 他

認定基準と点数： 優れた外国語活動の認定基準と点数は、表1に基づくものとする。特に、各外国語の検定試験の成績については、言語能力を統一的な基準で判定できる「ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)」のレベル(表4)に準拠し、点数化する。優れた外国語活動は、在籍中の活動を対象とする。

表1 活動内容の評価基準と点数

活動内容	成績・期間等	点数	備考
CEGLOC 開設の応用的科目( TOEFL など外部検定試験の準備のために開講されている科目、初修外国語及び外国語としての日本語の応用科目)の成績	90点以上の評点	1~2点	1~2科目での成績は1点。 3科目以上での成績は2点とする。
英語の検定試験(表2、表3を参照)の成績	C2レベル相当のスコア C1レベル相当のスコア B2レベル相当のスコア B1レベル相当のスコア	4~5点 3~4点 2~3点 1~2点	CEFRの基準レベルとの対応表等を参照し、スコアを評価する。
初修外国語等の検定試験(表2、表3を参照)の成績	C2レベル相当のスコア C1レベル相当のスコア B2レベル相当のスコア B1レベル相当のスコア A2レベル相当のスコア	4~5点 3~4点 2~3点 1~2点 1点	CEFRの基準レベルとの対応表等を参照し、スコアを評価する。
留学・海外研修	4か月から1年の期間 4か月未満の期間	2点 1点	履修科目の成績表。研修内容の概要及び参加を証明する書類等を提出する。
海外インターンシップ	1か月以上の期間 1か月未満の期間	2点 1点	インターンシップ先の機関が出す活動証明書等を提出する。
通訳ボランティア	1か月以上の期間 1か月未満の期間	2点 1点	ボランティア先の機関等が出す活動内容を証明する書類等を提出する。
外国語・日本語弁論大会	優勝・準優勝 入賞 参加	3点 2点 1点	参加及び受賞を証明する書類等を提出する。
外国語によるチューター	3か月以上の期間	1点	チューターとして外国語で支援活動したことを証明する書類等を提出する。
その他の活動	活動内容による	1~3点	適宜外国語活動の対象となる活動等を検討する。

認定の категория:「優れた外国語活動」は、認定基準に基づいて認められた点数の総合得点によって、「最優秀賞認定」(7点以上)、「優秀賞認定」(5~6点)、「奨励賞認定」(3~4点)の3つの category を設ける。

**表 2 認定対象となる各外国語の検定試験(1)**

『履修要覧』「筑波大学が単位を与えることができる学修について」 に基づく各外国語の検定試験		備考
英語	(財)日本英語検定協会が実施する実用英語技能検定	CEFR の基準レベルとの対応表等を参照し、スコアを評価する。
ドイツ語	(財)ドイツ語学文学振興会が実施するドイツ語技能検定 ゲーティンステイトウートが実施するドイツ語検定試験	CEFR の基準レベルとの対応表等を参照し、スコアを評価する。
フランス語	(財)フランス語教育振興協会が実施する実用フランス語技能検定	CEFR の基準レベルとの対応表等を参照し、スコアを評価する。
ロシア語	ロシア語検定試験実行委員会が実施するロシア語検定試験	CEFR の基準レベルとの対応表等を参照し、スコアを評価する。
スペイン語	(財)日本スペイン協会が実施するスペイン語技能検定	CEFR の基準レベルとの対応表等を参照し、スコアを評価する。

**表 3 認定対象となる各外国語の検定試験(2)**

その他、CEGLOC が認める各外国語の検定試験		備考
英語	国際ビジネス協会が実施する英語能力測定テスト(TOEIC Listening & Reading 等) Educational Testing Service (ETS) が実施する外国語としての英語テスト (TOEFL iBT、TOEFL ITP)	CEFR の基準レベルとの対応表等を参照し、スコアを評価する。
外国語としての日本語	国際交流協会及び日本国際教育支援協会が実施する日本語能力試験	CEFR の基準レベルとの対応表等を参照し、スコアを評価する。
その他	上記以外の各外国語の検定試験	CEFR の基準レベルとの対応表等を参照し、スコアを評価する。

表 4 CEFR に基づく言語能力の熟達度別の到達目標

レベル	CEFR	能力レベル別に「何ができるか」を示した熟達度一覧
熟達した言語 使用者	C2	聞いたり読んだりした、ほぼすべてのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなりの長い文章を理解して、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の詳細な文章を作ることができる。
自立した言語 使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
	B1	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。
基礎段階の言 語使用者	A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単な日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるとか、持ち物などの個人的情報について、質問したり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。

British Council のホームページに基づく

認定の手続き: 優れた外国語活動は、以下の手順で認定を行う。

- 1 学生が「優れた外国語活動」認定申請書と認定に係る活動を証明する書類等(「優れた外国語活動」の認定基準に基づく得点表、各得点を証明する書類)を CEGLOC(事務室)に提出する。
- 2 「優れた外国語活動」認定に係る CEGLOC 審査委員会が審査する。
- 3 審査結果に基づいて、CEGLOC 企画調整部門会議及び CEGLOC 運営員会で承認後、「優れた外国語活動」の認定を受けた学生たちに対して、CEGLOC 長名で認定書(賞状)を授与し、表彰する。

# 「優れた外国語活動」認定証

## (最優秀賞)

(所属)  
(入学年度)  
(氏名)

あなたは、本学グローバルコミュニケーション教育センターの「優れた外国語活動」の認定基準に基づき頭書の成績を取めたのでここに認定し、その主体的な取り組み実績を称え表彰します。

- TOEFL-ITPスコア獲得 ( )
- TOEIC-IP L&Rスコア獲得 ( )
- ゲーテ・インスティトゥート検定  
CEFRレベル ( ) 合格
- DELFフランス語検定  
CEFRレベル ( ) 合格
- 留学 (留学先大学、期間)
- 外国語科目 ( ) においてA+獲得
- その他  
(具体的記述)

令和 年 月 日

筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター  
Center for Education of Global Communication

センター長 ○○ ○○



# 「優れた外国語活動」認定証 (最優秀賞)

(所属)

(入学年度)

(氏名)

あなたは、本学グローバルコミュニケーション教育センターの「優れた外国語活動」の認定基準に基づき頭書の成績を収めたのでここに認定し、その主体的な取り組み実績を称え表彰します。

令和 年 月 日

筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター  
Center for Education of Global Communication

センター長 ○○ ○○



(裏面)

活動内容:

- TOEFL-ITPスコア獲得 ( )
- TOEIC-IP L&Rスコア獲得 ( )
- ゲーテ・インスティトゥート検定  
CEFRレベル ( ) 合格
- DELFフランス語検定  
CEFRレベル ( ) 合格
- 留学 (留学先大学、期間)
- 外国語科目 ( ) においてA+獲得
- その他  
(具体的記述)

# 「優れた外国語活動」認定証

## (優秀賞)

(所属)  
(入学年度)  
(氏名)

あなたは、本学グローバルコミュニケーション教育センターの「優れた外国語活動」の認定基準に基づき頭書の成績を取めたのでここに認定し、その主体的な取り組み実績を称え表彰します。

- TOEFL-ITPスコア獲得 ( )
- TOEIC-IP L&Rスコア獲得 ( )
- ゲーテ・インスティトゥート検定  
CEFRレベル ( ) 合格
- DELFフランス語検定  
CEFRレベル ( ) 合格
- 留学 (留学先大学、期間)
- 外国語科目 ( ) においてA+獲得
- その他  
(具体的記述)

令和 年 月 日

筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター  
Center for Education of Global Communication

センター長 ○○ ○○

# 「優れた外国語活動」認定証 (優秀賞)

(所属)

(入学年度)

(氏名)

あなたは、本学グローバルコミュニケーション教育センターの「優れた外国語活動」の認定基準に基づき頭書の成績を収めたのでここに認定し、その主体的な取り組み実績を称え表彰します。

令和 年 月 日

筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター  
Center for Education of Global Communication

センター長 ○○ ○○

(裏面)

活動内容:

- TOEFL-ITPスコア獲得 ( )
- TOEIC-IP L&Rスコア獲得 ( )
- ゲーテ・インスティトゥート検定  
CEFRレベル ( ) 合格
- DELFフランス語検定  
CEFRレベル ( ) 合格
- 留学 (留学先大学、期間)
- 外国語科目 ( ) においてA+獲得
- その他  
(具体的記述)

# 「優れた外国語活動」認定証

## (奨励賞)

(所属)  
(入学年度)  
(氏名)

あなたは、本学グローバルコミュニケーション教育センターの「優れた外国語活動」の認定基準に基づき頭書の成績を取めたのでここに認定し、その主体的な取り組み実績を称え表彰します。

- TOEFL-ITPスコア獲得 ( )
- TOEIC-IP L&Rスコア獲得 ( )
- ゲーテ・インスティトゥート検定  
CEFRレベル ( ) 合格
- DELFフランス語検定  
CEFRレベル ( ) 合格
- 留学 (留学先大学、期間)
- 外国語科目 ( ) においてA+獲得
- その他  
(具体的記述)

令和 年 月 日

筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター  
Center for Education of Global Communication

センター長 ○○ ○○



# 「優れた外国語活動」認定証 (奨励賞)

(所属)

(入学年度)

(氏名)

あなたは、本学グローバルコミュニケーション教育センターの「優れた外国語活動」の認定基準に基づき頭書の成績を収めたのでここに認定し、その主体的な取り組み実績を称え表彰します。

令和 年 月 日

筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター  
Center for Education of Global Communication

センター長 ○○ ○○



(裏面)

活動内容:

- TOEFL-ITPスコア獲得 ( )
- TOEIC-IP L&Rスコア獲得 ( )
- ゲーテ・インスティトゥート検定  
CEFRレベル ( ) 合格
- DELFフランス語検定  
CEFRレベル ( ) 合格
- 留学 (留学先大学、期間)
- 外国語科目 ( ) においてA+獲得
- その他  
(具体的記述)

# 「優れた外国語活動」認定申請書

年 月 日

グローバルコミュニケーション教育センター長 殿

氏 名

---

学籍番号

---

所属

---

携帯電話

---

電子メールアドレス

---

別添のとおり、「優れた外国語活動」の認定基準に基づく得点表(自己採点)、各得点を証明する書類を提出しますので、審査の上、認定証(賞状)の交付をお願いします。

認定候補者 氏名 \_\_\_\_\_

学籍番号 \_\_\_\_\_

学群・学類 \_\_\_\_\_

## 大学院学位プログラム

## 「優れた外国語活動」の認定基準に基づく得点表(自己採点表)

活動内容	成績・期間	点数	備考
CEGLOC 開設の応用的科目 (TOEFL など外部検定試験の準備のために開講されている科目、初修外国語及び外国語としての日本語の応用科目)の成績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・90点以上の評点 (科目名: ) (評点 )</li> <li>(科目名: ) (評点 )</li> <li>(科目名: ) (評点 )</li> </ul>	1・2点 (計 点)	1～2科目での成績は1点。3科目以上での成績は2点とする。
英語の検定試験(表2、表3を参照)の成績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・C2レベル相当のスコア (試験名: ) (スコア: )</li> <li>・C1レベル相当のスコア (試験名: ) (スコア: )</li> <li>・B2レベル相当のスコア (試験名: ) (スコア: )</li> <li>・B1レベル相当のスコア (試験名: ) (スコア: )</li> </ul>	4・5点 3・4点 2・3点 1・2点 (計 点)	CEFRの基準レベルとの対応表等を参照し、スコアを評価する。
初修外国語等の検定試験(表2、表3を参照)の成績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・C2レベル相当のスコア (試験名: ) (スコア: )</li> <li>・C1レベル相当のスコア (試験名: ) (スコア: )</li> <li>・B2レベル相当のスコア (試験名: ) (スコア: )</li> <li>・B1レベル相当のスコア (試験名: ) (スコア: )</li> <li>・A2レベル相当のスコア (試験名: ) (スコア: )</li> </ul>	4・5点 3・4点 2・3点 1・2点 1点 (計 点)	CEFRの基準レベルとの対応表等を参照し、スコアを評価する。
留学・海外研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4カ月から1年の期間 (機関等名: ) (期間 )</li> <li>・4カ月未満の期間 (機関等名: ) (期間 )</li> </ul>	2点 1点 (計 点)	履修科目の成績表。研修内容の概要及び参加を証明する書類等を提出する。
海外インターンシップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1カ月以上の期間 (機関等名: ) (期間 )</li> <li>・1カ月未満の期間 (機関等名: ) (期間 )</li> </ul>	2点 1点	インターンシップ先の機関が出す活動証明書等を提出
通訳ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1カ月以上の期間 (機関等名: ) (期間 )</li> <li>・1カ月未満の期間 (機関等名: ) (期間 )</li> </ul>	2点 1点	ボランティア先の機関等が出す活動内容を証明する書類等を提出する。
外国語・日本語弁論大会	<ul style="list-style-type: none"> <li>(大会名: )</li> <li>・優勝・準優勝 ( 位 )</li> <li>・入賞等 ( 位 )</li> <li>・参加 ( )</li> </ul>	3点 2点 1点	参加及び受賞を証明する書類等を提出する。
外国語によるチューター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3カ月以上の期間 (言語 ) (期間 )</li> </ul>	1点	チューターとして外国語で支援活動したことを証明する書類等を提出する。
その他の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容の記載 ( )</li> <li>( )</li> <li>( )</li> </ul>	1・2・3点 1・2・3点 1・2・3点 (計 点)	適宜外国語活動の対象となる活動等を検討する。
合計得点		点	

令和3年度 グローバルコミュニケーション教育センター

「優れた外国語活動」認定申請の審査結果について

認定申請件数：3件

「優れた外国語活動」認定審査委員会（CEGLOC 企画調整部門会議構成員）：

白山利信、小野正樹、磐崎弘貞、石塚修、井出里咲子、関崎博紀

日時：2022年2月17日（木）

形態：Zoom 会議

審査結果：3件認定

	氏名	学群・学類名	学年	活動内容	顕彰内容	得点
①	岸原 港	医学類	6年	英検1級合格、IELTS 7.5、仏検準2級合格、海外研修4ヶ月未満(ILSC)他。	最優秀賞認定	8
②	西田 直人	情報メディア創成学類	4年	CEGLOC開設の応用的科目の成績(6科目A+)、実用英語検定1級合格、ロシア語能力検定3級、海外研修(サンクトペテルブルグ大学、カザフ国立大学)、外国語によるチューター(ロシア語)、全国ロシア語作文コンクール参加、2019年度日露青年フォーラム参加、トライリンガルデーでのポスター発表他	最優秀賞認定	15
③	横山 海青	情報理工学位プログラム	1年	OSS joycons-rs(無料公開ソフトウェア)を英語で無料公開・対応。国際会議INTER ACT2021で英語による口頭発表、学術誌での英語論文の発表(第1著者)	奨励賞認定	3

承認日：2022年3月2日（CEGLOC 企画調整部門会議）

2022年3月4日（CEGLOC 運営委員会、メール審議期間3月2日～4日）

認定書授与日：2022年3月8日





## 活動報告（英語） アカデミックライティングサポートデスク（AWSD）の設置準備

井出里咲子・ン レイション・磐崎弘貞

CEGLOC の英語セクションでは、筑波大学全体の英語による発信力強化を目的とする英語ライティング支援の拠点として、ライティング・センターを設置する準備を行った。名称をアカデミックライティングサポートデスク（通称 AWSD）とし、2022 年 4 月の正式な運用開始を目指して、ワーキンググループを立ち上げ、準備を実施した。

### 1. AWSD 準備ワーキンググループ（以下、WG）のメンバー（2021 年 4 月）

磐崎弘貞教授、小野雄一教授、井出里咲子准教授、ン レイション助教、納谷亮平助教、末森咲助教、Joel Laurier 准教授、Murod Ismailov 助教、James Morris 助教、梅原優特任研究員、の 10 名、および白山利信センター長（オブザーバー）

### 2. AWSD の運用理念とその概要

AWSD は「自律的な書き手」を「育成する」ことを理念に、書き手とチューターが対話をし、協働しながら英語で書く力を養うことをその目的とする。チューターは書き手とともに、英語の文章の問題点、修正方法について共に考え、書き手が創造的、批判的に、自信をもって英語の文章を書けるように支援を行う。具体的な支援内容としては、英語によるレポートや研究論文、口頭発表の原稿等の作成上（下書きを書く／構想を練る／構成する／言語形式や体裁を整える／正しく引用する等）のアドバイス提示を中心に行うほか、分野を問わず、英語のライティングに関する専門的なアドバイスを幅広く行う（図 1 参照）。

チュータリングは原則として予約制による 1 対 1 の形式（30 分）で、利用者はメディアライブラリーのセミナー室での対面と、オンライン会議システムの Zoom 等を用いたオンラインでのコンサルテーションのいずれかを選ぶことができる。

### 3. 準備の経緯

WG では、2021 年 5 月から隔週でオンラインミーティングを実施した（長期休暇期間を除く）。

- ① ンレイション助教を中心に、ライティング・センターの理念や運営方法について国内外の大学のライティング・センターの状況からその状況を把握。
- ② 磐崎教授、ンレイション助教が早稲田大学のライティング・センターへの視察を実施（2021 年 7 月）。
- ③ 2020 年度に改装したメディアライブラリーのセミナー室に、対面指導のチュータリングルームを設置（2021 年 8 月）。英語ライティングに関する専門書籍、アクリルパーテーション、空気清浄機、プリンター、ノートパソコンを設置（図 2 参照）。
- ④ HP の設立（2021 年 10 月）。<https://sites.google.com/view/cegloc-awsd/>

- ⑤ 予約システムの構築と AWSD プレ運用開始 (2021 年 12 月)。
- ⑥ 広報活動として、AWSD の日英語ポスターを作成 (図 1 参照) の上、メディアライブラリー内外へ掲示。メディアライブラリーと筑波大学附属図書館の Twitter、Instagram にて広報を実施 (図 3 参照)。AWSD のプロモーションビデオ (1 分 21 秒) を作成。
- ⑦ 実際の運用を確認するため 2021 年 12 月よりプレオープンとしてチュータリングを開始。利用者の希望利用時間帯、利用者層 (専門性、年次等)、希望するチュータリング内容の把握を実施 (図 4 参照)。
- ⑧ Google フォームを用いてチューター利用者から利用に関するフィードバックを収集。利用目的としては、「海外の大学院へ留学のための申請書作成補助」「IELTS のライティングのスコアアップを目指したい」といったものがあり、利用の効果として、「単語の意味のニュアンスを理解し使い分ける」「よりよい表現を教わる」「自身の英作文の問題点を明らかにする」こと等が挙げられた。またチューターを実施した教員のふりかえりを行うリフレクション・シートも作成し、指導の改善に利用している。

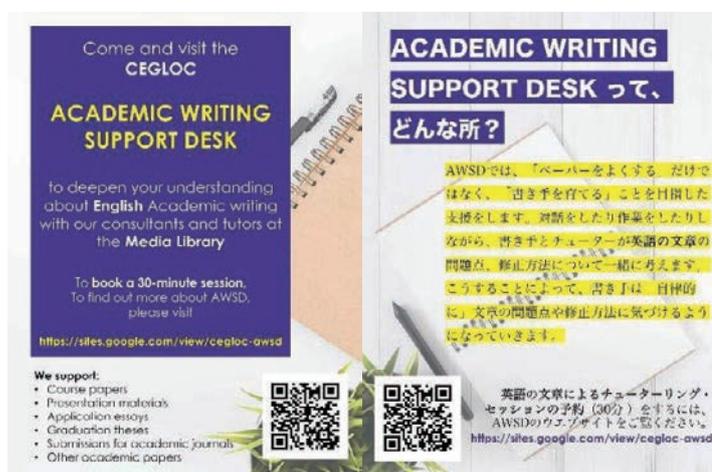


図 1 日英語によるポスター



図 2 メディアライブラリー内の相談室



図 3 Twitter による広報



図4 対面でのチュータリングのイメージ図（プロモーションビデオより画像抜粋）

#### 4. 今後の活動予定

##### (1) キックオフイベントの開催

2022年4月の正式公開に先立ち、2022年3月23日（水）14–16時にオンラインでのキックオフイベントを開催予定である。ゲスト講師として名古屋大学ライティング・センター・ディレクターの Paul W. L. Lai 教授、および早稲田大学ライティング・センター・ディレクターの佐渡島紗織准教授を招聘予定である。

##### (2) 学生チューターの募集と育成

大学4年生または大学院に所属する筑波大生を育成し、チューターとして雇用するための活動を開始する。

##### (3) 筑波大学内の他のライティング・センターとの連携

主に日本語でのライティング支援について大学院生が支援を行っている筑波大学附属図書館の学生サポートデスク（ライティング支援ポータル）、及び主に留学準備に関するライティング支援を行う Student Support Center(Global Commons)のライティングサポートデスクとのサービスの差別化と協働を行う。

##### (4) 広報

広く学内に AWSD の設置について広報し、利用を促進する。

（2022年2月10日 文責：井出里咲子）



## Report on EMI activities at the University of Tsukuba

Murod ISMAILOV, Yukiko YAMAMOTO

In AY 2021/22 the Center for Education of Global Communication at the University of Tsukuba continued to actively promote English Medium Instruction (EMI) through campus-wide faculty development, academic publications, research dissemination, and international collaboration.

On January 12, 2022 the University of Tsukuba in collaboration with the Nippon-Foundation Central Asia Japan Human Resource Development Project (NipCA Project) hosted a guest lecture by the director of Oxford EMI Julie Dearden entitled “Internationalising Higher Education and English Medium Instruction (EMI).” Julie Dearden previously worked as a lecturer at the Department of Education, University of Oxford. She writes on EMI as a global phenomenon, the changing roles of academics and teachers in an EMI context. Julie also worked as a Senior Research Fellow in EMI at Oxford University from 2013-16 and in the Oxford research team publishing a systematic review of EMI in higher education in 2018. She is the author of the first global overview entitled “EMI a Growing Global Phenomenon” published in 2015 by the British Council including her well-known definition of EMI as "The use of the English language to teach academic subjects in countries or jurisdictions where the first language (L1) of the population is not English" (Dearden, 2015).

During her online lecture, Julie Dearden talked about the MAST framework which describes critical factors when universities decide to internationalise: **M**anagement and context; **A**dmissions and student support; **S**tudent outcomes, assessment; and **T**eaching and learning. Her lecture mainly focused on this last aspect. Having studied EMI in 55 different countries, Dearden believes that EMI is a growing global phenomenon. Her work informs how to support EMI teachers in higher education. The lecture was attended by over 20 faculty members of the university. More FD events are being planned for the 2022/23 academic year.

In addition to FD development initiatives, the faculty of CEGLOC continued to conduct research under a recently obtained competitive grant-in-aid (Kakenhi C) entitled ‘The study of pedagogical competencies and skills of Japanese faculty involved in the English Medium Instruction’ (Ismailov and Yamamoto). In November 2021, the research team from University of Tsukuba in collaboration with scholars from Oxford EMI, Chinese University of Hong Kong and Tsukuba Gakuin University have published a large study entitled “Challenges to Internationalisation of University Programmes: A Systematic Thematic Synthesis of Qualitative Research on Learner-Centred English Medium Instruction (EMI) Pedagogy” in *Sustainability* journal (Impact factor 3.25). The researchers studied over 1760 participants in 20 non-Anglophone countries and jurisdictions. The findings of most learner-centred EMI studies revealed that the main challenges came from English comprehension and also included factors related to the learning environment. These results were later presented at the 14th annual International Conference of Education, Research and Innovation (ICERI2021, Seville, Spain and online).



## 活動報告（ドイツ語） -オンライン授業に関するFDとゲーテ・インスティトゥート試験-

畔上泰治・ルーデ・マルクス・茅野大樹

### 1. オンライン授業に関するFD懇談会の実施

ドイツ語教育部門では、2021年9月、オンライン授業に関する実践経験・手法等の情報交換を主目的としたFD懇談会を2回実施した。初回を対面形式〈9月22日、CEGLOC棟4Fにて開催〉で、第二回をZoom〈9月24日〉で行い、筑波大学初修ドイツ語教育担当専任教員、また非常勤講師の参加を得た（参加者：ルーデ・マルクス、畔上泰治、茅野大樹、濱田真、岡本時子、マティアス・ファイファー）。このFD懇談会では、新型コロナウイルス蔓延防止を目的としてCEGLOCの授業（外国語）が対面形式での実施に代わりオンラインで実施されることになったことに伴う諸問題の検証と次年度以降に向けた改善点の提案、授業スキル向上に向けた情報交換を目的とし、企画された。そこでは参加者がそれぞれ授業での経験・事例を報告し、また諸問題を提起し、その解決と授業改善に向けた手法の交換、新たな提案を出し合う形で行われた。そこで提起された認識と議論された事項は以下のとおりである。

- ① オンライン授業に対する教員側の経験の不足に対する改善策
- ② オンライン授業においては、学生同士の相互練習が難しい。Teamsに比べてZoom利用が便利ではないか。
- ③ Teamsを利用した授業における登録時の技術的問題：非常勤講師に対する支援
- ④ 教科書に関する問題：オンライン授業・75分授業用の適切な教材の不足
- ⑤ 「基礎ドイツ語A」と「基礎ドイツ語B」の効果的な連携に関する諸問題：教材の選択、教員間の連携
- ⑥ 学期末評価に関する諸問題（とくに「総合学域」発足に伴う素点による評価）：クラス間での評価の相違、オンラインを利用した試験における公平性確保の問題、相対評価の問題点（GPAとの関連で）、統一試験（日程・問題）導入の可能性と諸問題

\*付記：この中で指摘された教科書の問題に関しては、2022年度授業計画作成を前に、授業担当予定教員に対して、75分・オンライン授業用に推奨できる教科書に関してアンケートを実施した。

### 2. ゲーテ・インスティトゥート試験（Start Deutsch: A1, A2）

前年度と同様に、ゲーテ・インスティトゥートが管轄する国際的な通用性を有するドイツ語検定試験（Start Deutsch: A1,A2）を、2021年度も本学において下記の要領で実施することにし、学生に案内した。

日時：2022年2月18日（金）

場所：CEGLOC（301-307教室）

出願締め切り：2022年1月21日（金）、17：00

出願方法：所定の様式に記入し、CEGLOC事務室に電子メールで送付

受験生に対する事前ミーティング・準備：2022年2月3、9、10、16、17日（オンライン）

なお、2021年度の実験応募者はA1＝5人、A2＝6人であった。

付記：この試験はオンラインによる実施は認められてはおらず、対面形式で実施することが求められている試験である。

（2022年1月27日 文責：畔上泰治）

## 活動報告（フランス語） フランス語圏の留学促進のための教職員セミナー

ジャクタ ブルノ・シャー 勝間田 マハディ

筑波大学の人文社会系及び CEGLOC は「フランス大学の留学プログラム」の促進プロジェクトの一貫として国際室のサポートのもと、去年同から四つのセミナーを開催しました。フランスに留学した学生や留学を希望する学生のエンパシーインタビューを行った国際室のシャー勝間田と人文社会系及び CEGLOC のジャクタは学生とともに「ペルソナ」という手法を基にセミナーを開催しました。

今回のセミナーは、コロナの状況が緩和された後のフランス留学に向けて、本学の教職員が協力して、留学プログラムを盛り上げていくことを目的としています。また、このパイロットプロジェクトは、世界の他の地域への留学プログラムを推進していくことも目的としています。今後本学の学生のために新しい留学の機会を、どのように作りだしていくか考える場にしたいと思いました。

対象：人文社会系長、人文社会系のフランス語担当教員及びフランス関係の研究者、CEGLOC センター長、国際室の担当者、グローバルcommonsの担当者、学生交流課の担当者、SUG-CiC の担当者。

背景：学生が利用できる奨学金が増えるポテンシャルがあります。コロナ禍の時代の中、どのような形でフランス留学を促すことができるか検討を続けて行く必要があります。

「エンパシー・インタビュー」とはデザイン・シンキングの手法の一つとして、学生のモチベーションや心情を、偏見をなるべく無くした状態で行うインタビュー調査です。

「ペルソナ」とはインタビューデータを基にユーザー中心設計やマーケティングにおいて、サービスを使用する典型的なユーザーを表すために作成された架空のキャラクターのことです。

本報告書には第4回のセミナーとプロジェクト継続方法を記載されています。

### 【第4回セミナー】

日時：2021年7月21日(水) 10:00-12:00

会場：本部アネックス棟国際室会議室 1+2

出席者：8名 人文社会系：ジャクタ ブルノ（コーディネーター）、矢澤 翔；国際室：シャー 勝間田 マハディ（コーディネーター）、森尾 貴広、横山 真紀、吉田 恭代；学生交流課：須藤 嘉裕；学生アシスタントスタッフ：佐藤 祐人

### 1. 概観 (Design Thinking: デザイン思考のプロセスの6段階)

これまでの成果・本日の内容・目指していくものについて

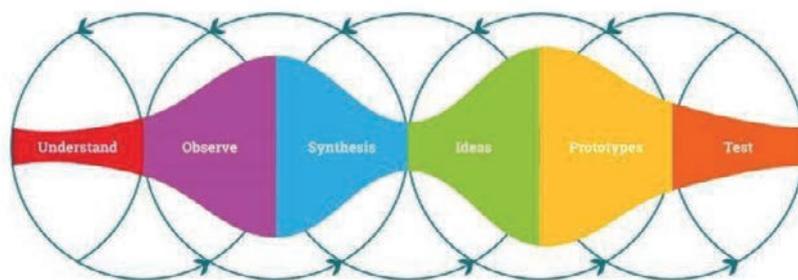
まずジャクタ先生の挨拶に始まり、参加者の自己紹介がありました。

今回のセミナーでは、2名の初めての方にご参加いただきました：

- ・人文社会系 矢澤 翔（ヤザワカケル）先生（江口 真規（エグチマキ）先生に代わってモントリオール大学の連絡調整責任者に引き継いでいただく予定）
- ・国際局国際室 吉田 恭代（ヨシダヤスヨ）様

続いて勝間田 マハディ氏から、前回までの活動の流れと、デザイン思考プロセスの6段階について説明がありました。今回のワークショップは第5段階「プロトタイプ」から進めました。

### デザイン思考プロセスの6段階



#### 1. 理解

問題を定義し、議論や調査を通じて文脈や関係者に精通する。

#### 2. 観察

インタビューや観察を通して、潜在的なニーズを探り、意外な発見をする。

#### 3. 総合的な考察

複数の発見を結合し、意味を生成し、単一のユーザーに焦点を当てる。

#### 4. アイデア

共感的なブレインストーミングによって可能な限り多くの考えを開発する。

#### 5. プロトタイプ

アイデアを定義し、可視化し、構築し、コミュニケーションが取れるようにする。

#### 6. 試用

プロトタイプ、アイデア、分析、研究などのフィードバックを求め、取捨選択し、改善する。

「プロトタイプ」「試作品」の段階は、ユーザーが使いやすいものを生み出すことに関係します。私達の場合は、主に目下フランスやカナダなどのフランス語圏の協定校への留学プログラムを紹介するパンフレット（ブローシャ）を作ることです。

この第4回のセミナーの目標は、現行のプロトタイプの内容を改善し、最終形に向けて様々な内容を整理するためのデザインや議論をすることです。

セミナーの終盤、われわれはデザイン思考の最後の段階でもある、「テスト」「試用」についての議論も行うことができました。

#### 1.1

われわれは完全な成品を作っているのではなく、これはまだ試作品であるということを確認しました。デザイン思考のプロセスには、実際に利用される最終的なものを作る前に、使う側の意見を提供してもらうための第6段階「試用」があります。

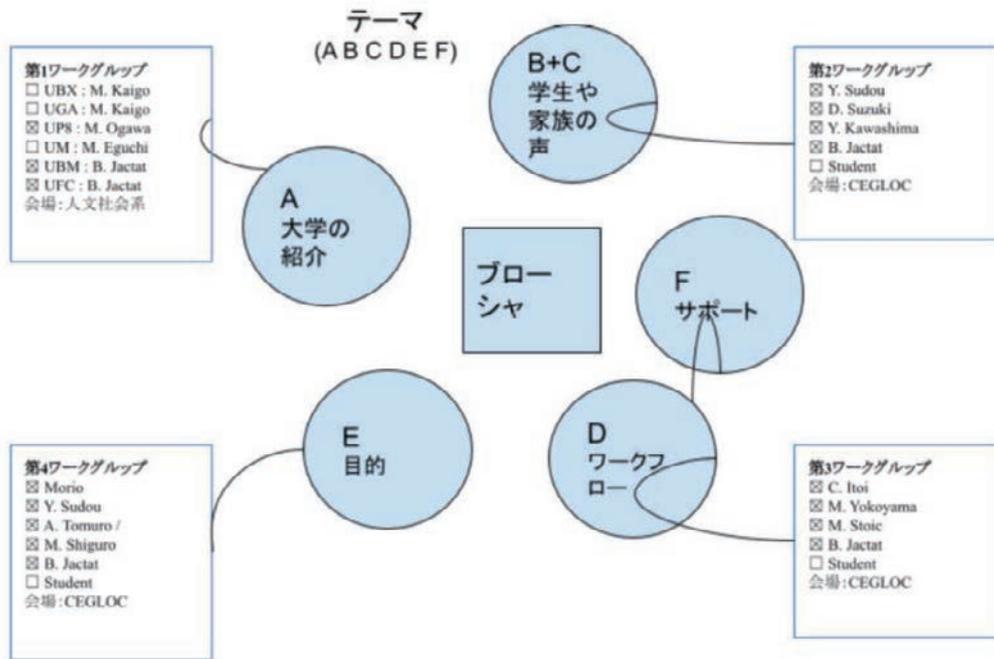
#### 1.2

また私達は改善を続けている途上にあるので、提案された全てのアイデアを用いる訳ではなく、目下の最初のパンフレット作成のために実行可能なものを選択しているということ

を確認しました。オンラインの現状に合わせ、私達はこのプロセスを洗練し、年々内容やデザインや使用媒体を向上させていくつもりです。

### 1.3

この第4回のセミナーは、2カ月間の新しい試作パンフレットのための内容準備期間に続くものでした。前回のセミナー参加者は4つのワークグループに分かれて、以下の表に記したパンフレットの部分に関して準備をしていただきました。



ワークグループ	ワークグループの会議		
	第1回会議	第2回会議	第3回会議
1	メールやり取り	メールやり取り	メールやり取り
2	6月3日(木) 14:15 - 15:15 オンライン	7月16日(金) 14:30 - 15:30 CEGLOC 302号室	—
3	5月31日(月) 13:15 à 14:30 オンライン	6月7日(月) 13:15 - 14:15 CEGLOC 302号室	7月16日(金) 13:30 - 14:30 オンライン
4	6月3日(木) 15:30 - 16:30 CEGLOC 302号室	7月16日(金) 15:30 - 16:30 CEGLOC 302号室	—

## 2. プロトタイプについてのポスターセッション (立談)

各ワークグループの成果は A3 のポスターに印刷して壁に展示し、ポスターは色の付箋、数字、アルファベットで識別しました。

ワークグループ	ポストイット	色	トピック
1	1A~E	緑	大学の紹介
2	2A~H	ピンク	学生の声
3	3	青	ワークフロー表
4	4A~I	灰	フランス圏留学のメリットなど

グループ 1 から 4 まで、それぞれがまとめた成果と、どのようにそれに掛かったのかなど短い

プレゼンテーションを行いました。他のグループのメンバーは随時質問やコメントを述べました。



▲ワークグループ 2 の作業を説明する学生交流課の須藤 氏



▲ワークグループ 3 の作業を説明する国際室の横山 氏

### 3. チームでのワークショップ（座談）

ワークグループのメンバーを混ぜた 2 つの班を作りました。

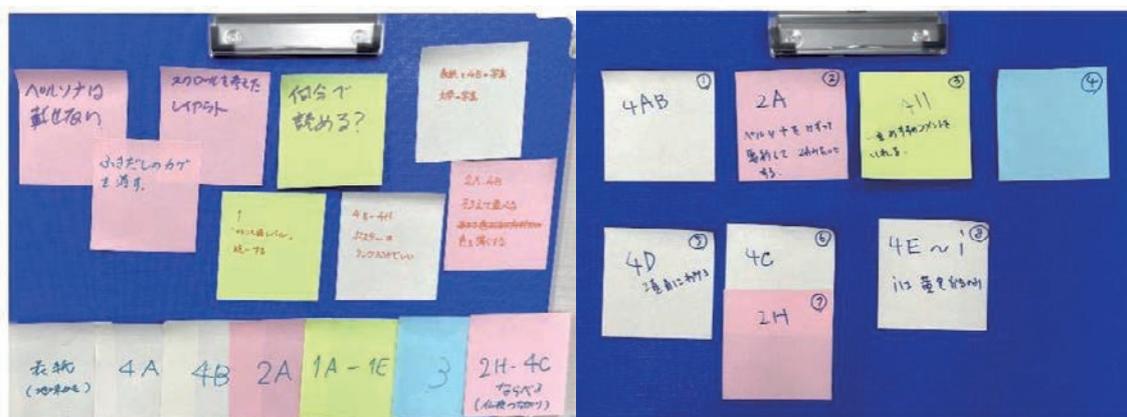
タスク：各班はポスターの内容をパンフレットにする上での順序を議論しました。

このタスクの指示は以下の通りです。

(1)ポスターの内容をパンフレットに再構成する上で最も理にかなっていると思われる順序を考える。

最終的に使う側である学生の視点で考えることを意識する。

- (2) その順序や根拠に基づいて、ギャップを埋めたり、展開をよりよくしたり、話題間のつながりを加えたり、内容を洗練できないか議論する。
- (3) 付箋を用いて、考えられる順序をボードに並べる。
- (4) 代表者が、付箋を貼ったボードを用いながら、各班で気付いたことをメンバーに発表する。



順序については両班の意見がほとんど一致しました。

ポスターをパンフレットにする際の提案：

- ・白黒で印刷される場合のための調整をする
- ・大学の情報について、それぞれおすすめのポイントを加える。
- ・大学と連携している担当教員の写真を掲載する。
- ・各ページの情報は、印刷された冊子ではなく、スマートフォンでスクロールされることを想定したレイアウトにする方が望ましい。編集業者にレイアウトの調節を依頼する。
- ・学生のインタビューの形式を統一する。「ペルソナ」形式のインタビューを使うべきか。
- ・パンフレット表紙の写真は大学の写真にする。
- ・リンクの掲載だけで十分な情報もある。
- ・読む時間、情報量を吟味する。

### 【秋学期の活動】

(1) 第4回セミナーでの議論を踏まえたフォローアップステップ（2021年8月）。

- ・仕上げ：参加者のアドバイスに基づいて内容を修正。
- ・パンフレットの最終プロトタイプ作成。

(2) 試行運用（2021年10月）

デザイン思考プロセスの6番目となるこのステージの目的は、フランス語圏の留学希望者を含む最終ユーザーの意見を収集し、最終案（オンラインパンフレット）をより良いものに

することです。215人の学生がアンケートに答えてくれました。このプロセスの後、プロトタイプはユーザーに合わせて最適化されました。

### (3) 調査の目的

- 1 大学生に、CEGLOC フランス語セクションの2016年のパンフレットと新しいプロトタイプのパンフレットを比較してもらうこと。
- 2 パンフレットによってフランス語圏への留学に対する学生の関心が高まったかどうかを検討する。

調査の結果、最終的なパンフレットを大きく変更することができた。

### (4) 最終版（2022年2月）

出版社候補に見積もりを依頼した結果、イネクスト社に「フランス語圏留学ガイドブック」というタイトルの新しいパンフレットのデザインを依頼することになりました。このプロジェクトは、令和3年度 筑波大学教育戦略プロジェクト支援事業「外国語活動認定の制度化と『筑波式統合言語学習』の推進」の助成による成果の一部です。

完成版は、CEGLOCのサイトのほか、学生支援センター(SSC)のサイトでも公開されます。

#### 【次年度（2022年4月より）】

パンフレットの改善を継続するため、以下の事業を実施する。

#### (1) パンフレットの改善

パンフレットをより良いものにするために、スタッフや学生から以下のような改善案が出されました。

- ・卒業生を含む海外の学生、在学生へのインタビュー
- ・学生の家族、友人、教授からのフィードバック
- ・音声・映像の追加

#### (2) パンフレットの維持・更新

- ・情報（連絡先など）の更新
- ・情報の追加（大学の基本情報、詳細情報など）
- ・関連する管理者・部署間での最新作業の共有化

#### (3) 2022年版アンケートを更新

アンケートの目的

- 1 大学生に、2016年のCEGLOCフランス語部門のパンフレットと最終版のパンフレットを比較してもらうこと。

2 プロトタイプのパンフレットと最終版パンフレットに対する学生の評価に差があるかどうかを検討すること。2016年版パンフレットと比較した際に、パンフレット自体のデザイン（プロトタイプと最終版）が評価に影響を与えたかどうかを知ること。

(4) 記事掲載について

DTの全過程と両調査アンケートの内容を分析・考察し、国際誌に論文として発表する予定です。

以上

DTセミナー コーディネーター

ジャクタ ブルノ グローバルコミュニケーション教育センター

シャー勝間田マハディ 国際室UIA



## 活動報告（日本語）

### 初級会話データベース型日本語教育コンテンツ「にほんごアベニュー」の開発

小野正樹・伊藤秀明・ヴァンバーレン ルート・文昶允・チョーハン アヌブティ

#### 1.はじめに

国内外の大学生の日本語学習者を対象として、コミュニケーション目的に合った教育内容・教育方法の解決のために、学習者ベースの教育コンテンツ「にほんごアベニュー」の開発に取り組んだ。日本語教師と日本語学習者双方が使える方向性を考え、Council of Europeの「Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment (CEFR)」に基づいた学習目標設定に基づいた行動レベルのスタンダードだけではなく、スタンダードに沿った具体的な日本語を提供するものである。教育の課題と現代のWith 新型コロナ禍の状況で、日本語母語話者との接触が少なくなる現状を考慮し、「話者」「場所」「場面」「はたらき」の情報によって文脈化された発話・会話をデータベース化し、学習・教育・研究に役立てるように工夫し、特定の教科書に準拠しない汎用性、文型から離れた機能性の観点からのオンライン教材である。



#### 2. 「にほんごアベニュー」のコンセプト

外国語教育における CEFR に基づいた「CAN-DO リスト」の作成は、複数言語で活発に研究・開発がなされ、日本語教育においても、国際交流基金「JF 日本語教育スタンダード」、東京外国語大学「JLC 日本語スタンダード」など授業設計、評価を考えるための枠組提案、日本語学習者の到達目標基準が示されている。しかしながら、特定の状況でどのような日本語でコミュニケーションがなされるのかという具体的な記述がなく、日本語教育の現場では使用しにくいという批判がある。JF 日本語教育スタンダード」の生活日本語のコミュニケーション活動の中から、A1 レベルの「やりとり」を取り出した。

現在教室活動や教科書から離れて日本語を学習する方法も多々あり、従来の学習方法が

「頭に入れる→練習する→使う」という循環だけではなく、SNS の普及により、日本語を第二言語 (Japanese as Second Language :JSL) あるいは、外国語 (Japanese as foreign Language : JFL) として学ぶかといった区別だけではない新たな日本語環境がある。「使う→練習する→頭に入れる」(村上吉丈 2018) のように日本語を学ぶ学習者も増え、新たな学習方法の提供が必要となっている。

1,324 の状況での発話を、日本語母語話者と日本語学習者に作成依頼し、データの蓄積を図っている。このデータをもとに、CAN-DO 記述に対応する語彙、文型、表現のバリエーションを抽出した。例として「家の中で、ホストファミリーや同居人などが今どこにいるか、他の人にたずねたり、答えたりすることができる」という CAN-DO に対して (1)「行った」という問いに対する「行った」の会話だけではなく、(2)「行きましたか」に対して、「行っています」と文法形式の異なる例も収集できており、成果を文法・文型シラバスの発展に生かせるものである。

- (1) A: 木下さんはどこ行ったの?  
B: 図書館に行ったよ。
- (2) A: まことはどこに行きましたか。  
B: コンビニに行っていますよ。

初級文型を発展させて中級以降に学ばせる教材が多々あるが、初中級教材の『SITUATIONAL FUNCTIONAL JAPANESE』(筑波ランゲージグループ 1991) では、書名からも場面と機能が混在しているように、文法・文型中心に組み立てられている。中上級教材『どんなときどう使う 日本語表現文型 500』(友松悦子他 2010) でも、文型を基準として「目的・手段・媒介」「限定」「比較・程度・対比」など、30 の機能に分類して、教科書としている。こうした文型中心の教材の発想とは一線を画し、場面を重視し、CAN-DO に基づく機能で分類している。

### 3. 「にほんごアベニュー」の内容

「JF 日本語教育スタンダード」の CAN-DO 記述を検証し、「話者」「目的」「場面」「はたらき」から、初級レベルの生活日本語を整理し、A1 レベルの CAN-DO では「話者」では、親疎間の区別、「目的」では挨拶、案内、書く、買う、飲食等、「場所」では、家、街の中、学校、職場、店等、「はたらき」では、挨拶、勧める、尋ねる等に分類した。

CEFR レベル	CAN-DO	発話例	目的	働き	場所	文型・表現
A1	友人に家の中を案内するとき、実際に部屋を見せながら、何の部屋か、だれの部屋か言うことができる。	ここは寝室です。	遊ぶ	案内する	家	・N は N です

A1	モデル文があれば、「ご結婚おめでとうございます」「お幸せになっってください」など、友人の結婚式で読み上げる短いお祝いの言葉を書くことができる。	ゆうたさん、しおりさん、ご結婚おめでとうございます。	書く	メッセージを書く	イベント	・おめでとうございます
A1	職場への訪問客を出迎えた時に、「ようこそ」「お待ちしております」などの歓迎の言葉を言うことができる。	A:宮尾さん、お待ちしていました。 B:よろしくお願ひします。	働く	挨拶する	職場	・V ています ・謙譲語 ・よろしくお願ひします。

#### 4. 「にほんごアベニュー」の特徴

「にほんごアベニュー」の特徴は、「話者」、「場所」、「場面」、「はたらき」の情報によって整理された発話・会話例の検索ができる PWA コンテンツとなっている。PWA (Progressive Web Apps) とは、Web コンテンツをスマートフォンアプリのように使える仕組みのことで、スマートフォンでホームページに登録することでスマホ向けアプリと同様に利用でき、多くのユーザーが利用できる。

また、「ある（詳細な）状況にふさわしい日本語の例」を確認することもでき、Can-do に沿った会話例をユーザーが自由に投稿することもできるプログラムとなっている。

#### 5. 今後の計画

「にほんごアベニュー」は令和4年度に公開する。さらに CEFR A1 レベルの Can-Do に加えて、A2、B1 レベルでの場面の検討を開始している。また、各タスクのクイズも合わせて提供予定である。

なお、本プロダクト作成には、基盤研究(B)「CEFR の文脈化と日本語・日本語教育研究への応用」（課題番号 21H00534 代表 小野正樹）の支援を受けている。



活動報告（ロシア語）  
2021 年度「学群教育用設備整備等事業」の支援による  
ロシア語対面授業の試行実施について

白山 利信

## 1 はじめに

新型コロナウイルス感染拡大が猛威を振るった昨年度は、CEGLOC 開設の授業は原則としてすべてオンラインとなった。今年度も変異型ウイルスの拡大により、総合的なリスク判断からオンライン授業を余儀なくされている。その中で一部の担当教員から語学教育の効果がオンライン授業で半減しているとの声を聞く。語学の授業は、教員と学生の双方から発せられる、臨場感あふれる生きた言葉の活発なやり取りの中で教育効果が発揮される。しかし逆に、その活動特性が飛沫感染リスクを相対的に高めているのも事実である。

一方、国内のワクチン接種の供給や治療薬の普及などの見通しを鑑みると、長期間に及ぶ「ウィズコロナ」を前提とした教育活動の設計が必要不可欠である。学生の安全を最優先として、オンライン授業と対面授業の双方を円滑に実施していく体制づくりが CEGLOC の教育現場においてもまさに急務となっている。

このような背景のもと、「対面授業を安全に実施するための設備整備」事業が CEGLOC から 2021 年度「学群教育用設備整備等事業」に申請され、採択された。この事業を通じて、CEGLOC 開設授業の中で 15 名程度の少人数クラスの対面授業をより安全に実施するための設備整備を行なった。具体的には、コロナ感染防止対策として、CEGLOC の CA 棟 305 教室と 307 教室の学生席用及び教卓用に、飛沫遮断パネルを設置し、さらに二酸化炭素濃度測定器を配備した。

コロナ禍の収束が見えない中で、感染状況が極小化した時期である 2021 年 12 月に 2 回ないし 3 回、筆者が担当する CEGLOC 開設の授業、すなわち、「基礎ロシア語 AII」（火 3 限、9 名）、「基礎ロシア語 AII」（水 2 限、11 名）と、人文学類開設の授業である「露語文法論-b」（木 6 限、3 名）を対面授業で実施することができた。これはあくまでもトライアルとしての授業であり、設備整備を行なった CA305 教室と CA307 教室の使い勝手がどの程度良いのか、学生たちの反応がどうかを確認することを目的とした例外的な試みである。

「基礎ロシア語 AII」は 1 年次生の授業、「露語文法論-b」（木 6 限、3 名）は 2 年次生の授業であった。履修学生全員に、対面によるオンサイトの授業とオンラインの授業について教育効果などの感想を確認したところ、ほとんどの学生が対面授業に満足し、学習意欲も高まったと回答した。特に、ペアワークやグループワークなど、直接的なやり取りを同級生と行えることが大きな刺激となるようであった。「対面授業は、体育を除くとほとんどない状態の中で、ロシア語の授業を教室で受けること自体新鮮だった」との声も上がった。衝撃的な反応としては、「対面授業をしたいと思いますが希望しますか」という質問に対して、「露語文法論-b」の 2 年次生のある学生は、「1 年次からオンライン授業しか受けていないので、オンラインが良いのか、対面が良いのか、比較ができないので、わかりません。どちらでも

良いです」と答え、コロナ禍の深刻さを実感した。一方、学生たちは、長期的なオンライン教育に適応しながらも、同時に直のコミュニケーションと対面授業への渴望も持っている実態も明らかになった。

令和4年度も春学期については、CEGLOC は、原則的にオンライン授業を実施することになっている。国内的には、3回目のワクチン接種が始まり、さらに抗ウイルス経口薬の販売・普及も現実味を帯びている。その意味で、今年の下半期には、多くの授業で対面授業が再開されることが期待される。

少なくとも今回感染対策のために整備した CA 棟 305 教室と 307 教室を令和4年度秋学期から（状況が好転した場合には春学期の途中から）有効に活用し、CEGLOC 開設の、比較的小人数の選択自由科目などで対面授業を一部実施していくことが望ましいと考えている。

最後に、2021 年度「学群教育用設備整備等事業」を通じて、大学本部（加藤光保教育担当副学長、教育推進部、教育デザイン室、教育マネジメント室他）の財政的な支援に対して心から感謝申し上げたい。



CA305 飛沫防止パネル



CA307 飛沫防止パネル



二酸化炭素測定器（据え置き型）

※ 0～999ppm はランプ緑色 1000～1499ppm は赤色 1500ppm 以上は赤点滅

## 令和2年度 TOEIC® IP テスト実施結果について（報告）

今年度学群1年次対象のTOEIC® IPテストを1月14日（木）から20日（水）と1月28日（木）から2月3日（水）の2回、オンライン方式で実施しました。

また、学群3年次対象のTOEIC® IPテスト（11月実施）の未受験者を対象に、追加テストを1月14日（木）から20日（水）にオンライン方式で実施しました。

その受験結果について、以下のとおり報告いたします。

## 【学群1年次対象】

## ■実施日

①令和3年1月14日（木）～20日（水） 7日間

②令和3年1月28日（木）～2月3日（水） 7日間

■試験会場等 自宅、学内（CA棟教室等）、その他

■受験対象者数 2,152名（昨年度2,174名）

■受験者数 2,117名（①2,093名、②24名）（昨年度2,165名）

■受験率 98.4%（①97.3%、②40.7%）（昨年度99.6%）

## ■資料（別紙）

## 1. 受験状況について

- ・令和2年度学群1年次TOEIC® IPテスト受験状況について（別紙1）

## 2. TOEIC® IPテストスコアについて

- ・令和2年度学群1年次TOEIC® IPテストスコア一覧（別紙2-1）
- ・学群1年次TOEIC® IPテスト得点による人数比率分布（別紙2-2）
- ・学群1年次TOEIC® IPテスト得点分布比較（別紙2-3）

## 【学群3年次対象】

## ■実施日

①令和2年11月19日（木）～25日（水） 7日間

②令和3年1月14日（木）～20日（水） 7日間

■試験会場等 自宅、学内（CA棟教室等）、その他

■受験対象者数 2,232名（昨年度2,277名）

■受験者数 2,020名（①1,948名、②72名）（昨年度1,855名）

■受験率 90.5%（①87.3%、②25.4%）（昨年度81.5%）

## ■資料（別紙）

## 1. 受験状況について

- ・令和2年度学群3年次TOEIC® IPテスト受験状況について（別紙3）
- ・学群3年次組織別受験率の推移（参考）

## 2. TOEIC® IPテストスコアについて

- ・令和2年度学群3年次TOEIC® IP（追加）テストスコア一覧（別紙4-1）
- ・学群3年次TOEIC® IPテスト得点による人数比率分布（別紙4-2）
- ・学群3年次TOEIC® IPテスト得点分布（別紙4-3）

- Web 掲示による周知に加え、テスト一週間前までに対象学生全員に受験案内メールを送信するなど周知を強化。各教育組織の長にも周知依頼を行った。
- 実施前に推奨環境に適合した PC からの受験が困難な学生や WiFi 環境に不安のある学生について調査し、CEGLOC で貸出用 PC を用意し、WiFi 環境の整った CA 棟の教室を受験場所として提供するなどしてサポートを行った。
- 日本へ未入国となっている学生（主に 1 年次）の海外からの受験希望調査を行い、特別な配慮を TOEIC に依頼し、希望した学生全員が海外から受験できるようにした。
- オンライン方式では対応不可能な特別配慮を必要とする学生については、テスト期間内にマークシート方式による試験を実施した。
- 過年度の 3 年次 TOEFL ITP 受験時に休学や留学により、受験の機会を逃した 4 年次以上の者、科目等とのひも付けにより、当該テスト受験が必須の 4 年次以上の者に受験機会を与えた。

担当：グローバルコミュニケーション教育センター  
企画調整（内線 2422）  
e-mail: cegloc.ks@un.tsukuba.ac.jp

## 令和3年度 TOEIC® IP テスト実施結果について（報告）

今年度学群1年次対象のTOEIC® IP テストを4月6日（火）に実施しました。  
その受験結果について、以下のとおり報告いたします。

## 【学群1年次対象】

■実施日	令和3年4月6日（火）
■試験会場等	学内 全学教室等（医学、図情を除く）
■受験対象者数	2,133名（昨年度2,152名）
■受験者数	2,121名（昨年度2,118名）
■受験率	99.4%（昨年度98.4%）

## ■資料（別紙）

## 1. 受験状況について

- ・令和3年度 学群1年次 TOEIC® IP テスト受験状況について（別紙1）

## 2. TOEIC® IP テストスコアについて

- ・令和3年度 学群1年次 TOEIC® IP テストスコア一覧（別紙2-1）
- ・学群1年次 TOEIC® IP テスト得点による人数比率分布（別紙2-2）
- ・学群1年次 TOEIC® IP テスト得点分布比較（別紙2-3）

担当：グローバルコミュニケーション教育センター

企画調整（内線2422）

e-mail: cegloc.ks@un.tsukuba.ac.jp

## 令和2年度 学群1年次 TOEIC® IPテスト受験状況について

1. 実施日 令和3年1月14日(木)～1月20日(水)  
令和3年1月28日(木)～2月3日(水) (追加テスト)

## 2. 実施状況

学群	学類	全対象者	1月 受験者	欠席者	受験率	追加テスト 受験者	全受験者	未受験者	受験率
人文・文化学群	人文学類	121	117	4	96.7%	0	117	4	96.7%
	比較文化学類	81	81	0	100.0%	–	81	0	100.0%
	日本語・日本文化学類	44	43	1	97.7%	0	43	1	97.7%
社会・国際学群	社会学類	80	76	4	95.0%	2	78	2	97.5%
	国際総合学類	80	80	0	100.0%	–	80	0	100.0%
人間学群	教育学類	37	37	0	100.0%	–	37	0	100.0%
	心理学類	53	52	1	98.1%	1	53	0	100.0%
	障害科学類	36	36	0	100.0%	–	36	0	100.0%
生命環境学群	生物学類	79	78	1	98.7%	1	79	0	100.0%
	生物資源学類	123	121	2	98.4%	2	123	0	100.0%
	地球学類	50	47	3	94.0%	1	48	2	96.0%
理工学群	数学類	40	39	1	97.5%	1	40	0	100.0%
	物理学類	60	57	3	95.0%	0	57	3	95.0%
	化学類	51	51	0	100.0%	–	51	0	100.0%
	応用理工学類	122	119	3	97.5%	2	121	1	99.2%
	工学システム学類	131	127	4	96.9%	1	128	3	97.7%
	社会工学類	124	118	7	95.2%	4	122	2	98.4%
情報学群	情報科学類	85	79	6	92.9%	1	80	5	94.1%
	情報メディア創成学類	53	52	1	98.1%	0	52	1	98.1%
	知識情報・図書館学類	104	100	4	96.2%	0	100	4	96.2%
医学群	医学類	134	130	4	97.0%	3	133	1	99.3%
	看護学類	74	71	3	95.9%	2	73	1	98.6%
	医療科学類	37	37	0	100.0%	–	37	0	100.0%
体育専門学群		249	247	2	99.2%	1	248	1	99.6%
芸術専門学群		104	98	6	94.2%	2	100	4	96.2%
合計		2,152	2,093	60	97.3%	24	2,117	35	98.4%

【備考】 対象者数には、英語が母語の者、留学中、休学中の者を含まない。

Japan Expertプログラム学生（日・日2、資源3、芸術1、看護3）を含む。

令和2年度 学群1年次 TOEIC® IPテスト スコア一覧

別紙2-1

学群	学類	対象者	受験者数	最高点			最低点			平均			令和元年度(参考)	
				Listening score	Reading score	Total score	Listening score	Reading score	Total score	Listening score	Reading score	Total score	受験者数	TOEFL Total score (平均)
人文・文 化学群	人文学類	121	117	495	465	930	85	120	205	309.9	272.9	582.8	129	471.7
	比較文化学類	81	81	495	495	990	175	120	340	333.1	305.9	639.0	81	481.0
社会・国 際学群	日本語・日本文化学類※	44	43	495	485	940	130	130	310	304.9	259.9	564.8	41	458.6
	社会学類	80	78	495	465	950	170	85	255	317.9	292.8	610.8	81	479.8
	国際総合学類	80	80	495	465	945	120	120	345	375.8	329.6	705.4	82	508.2
	教育学類	37	37	495	465	960	150	150	315	339.6	319.5	659.1	35	478.5
人間学群	心理学類	53	53	495	465	945	150	70	230	339.0	305.8	644.7	52	489.2
	障害科学類	36	36	455	455	910	205	140	375	341.0	291.9	632.9	37	470.4
生命環境 学群	生物学類	79	79	480	435	905	110	60	220	315.8	265.6	581.3	80	463.1
	生物資源学類※	123	123	480	485	940	155	80	300	308.7	267.2	575.9	122	471.9
	地球学類	50	48	465	465	905	205	180	385	313.4	284.4	597.8	51	466.5
	数学類	40	40	430	395	825	160	130	305	283.4	252.3	535.6	41	461.2
理工学群	物理学類	60	57	495	455	940	100	95	290	285.7	254.4	540.1	61	452.8
	化学類	51	51	495	380	845	140	80	220	293.4	247.5	540.9	50	452.9
	応用理工学類	122	121	495	455	920	130	95	225	301.8	271.7	573.5	123	468.1
	工学システム学類	131	128	495	435	930	25	5	75	299.2	273.0	572.2	133	480.6
	社会工学類	124	122	465	455	910	45	95	140	312.0	289.1	601.2	123	470.6
	情報科学類	85	80	495	455	910	80	15	95	312.5	293.1	605.6	86	470.6
情報学群	情報メディア創成学類	53	52	495	485	980	55	50	105	338.8	297.5	636.3	55	491.4
	知識情報・図書館学類	104	100	455	445	880	80	50	200	289.4	245.4	534.8	101	451.7
医学群	医学類	134	133	495	495	990	120	110	250	348.4	324.8	673.2	135	517.9
	看護学類※	74	73	480	455	920	195	85	280	313.5	265.3	578.8	72	450.0
体育専門学群	医療科学類	37	37	440	380	820	130	140	320	321.9	277.2	599.1	37	464.5
	体育専門学群	249	248	430	395	790	10	10	35	227.7	181.9	409.6	251	409.8
芸術専門学群※	芸術専門学群	104	100	495	495	990	100	55	195	285.9	223.8	509.6	106	436.8
	全体	2,152	2,117	495	495	990	10	5	35	304.8	267.9	572.7	2,165	465.4

※対象者、受験者にはJapan Expertプログラム学生9名(日・日2、資源3、看護3、芸術1)を含む

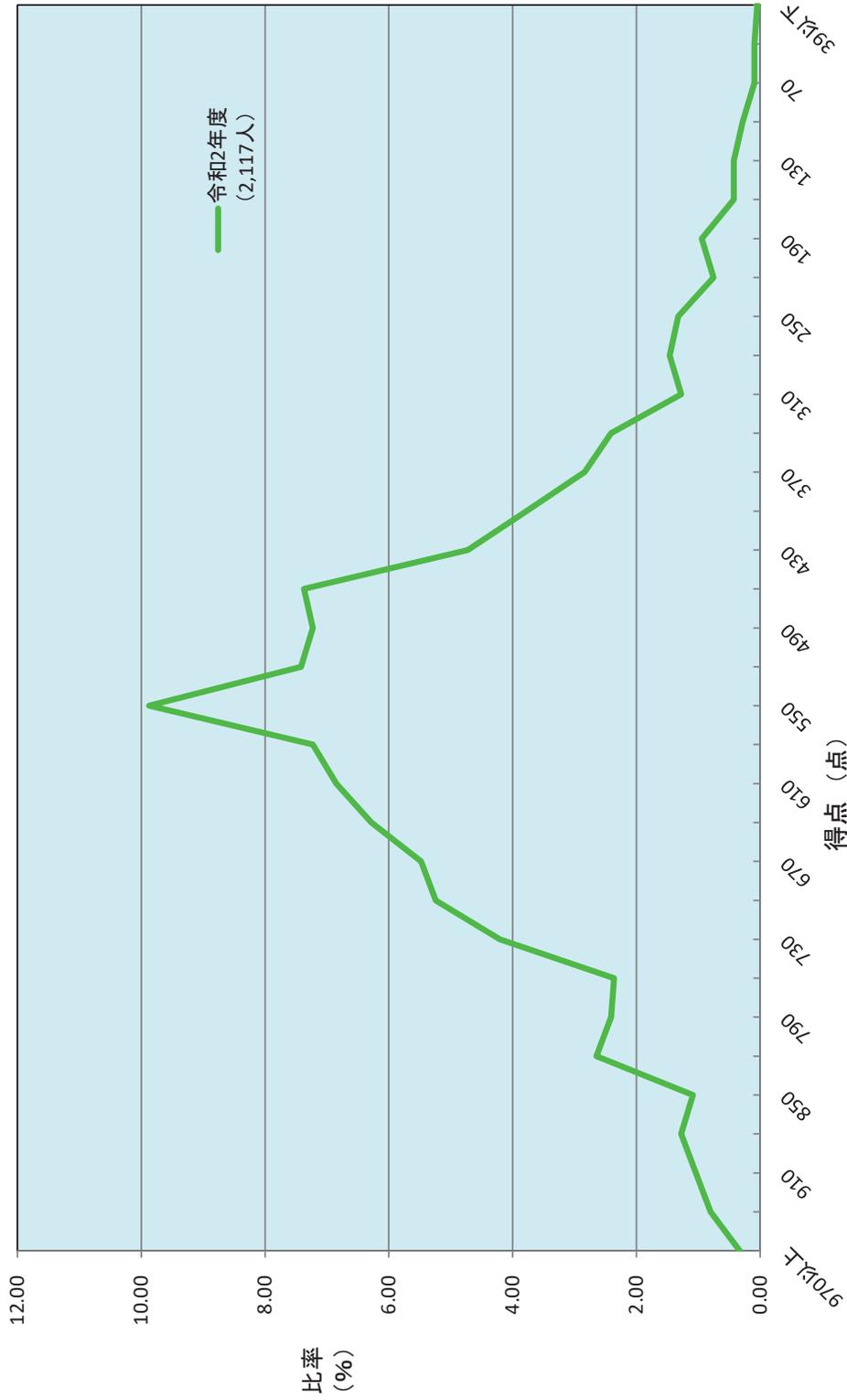
\*Listening Score (5-495), Reading Score(5-495), Total score(10-990)

\*最高点・最低点は各セクションにおける当該組織の受験者中の最高・最低の点数を示す。

\*平均欄のTotal scoreの全体欄の点数は、全受験者の点数を合算し、受験者数で除算のうえ算出。

(一部受験しない科目があり、合計スコアがない受験者がいる場合は、当該学生の所属の平均は当該学生を除外して算出)

学群1年次 TOEIC® IPテスト 得点による人数比率分布



トータルスコア: 30点台刻み	令和2年度 (2,117人)
970以上	0.33
940	0.80
910	1.04
880	1.28
850	1.09
820	2.65
790	2.41
760	2.36
730	4.20
700	5.24
670	5.48
640	6.28
610	6.85
580	7.23
550	9.87
520	7.42
490	7.23
460	7.37
430	4.72
400	3.78
370	2.83
340	2.41
310	1.28
280	1.46
250	1.32
220	0.76
190	0.94
160	0.43
130	0.43
100	0.28
70	0.09
40	0.09
39以下	0.05

※ 受験者のうち、一部科目等を受験せず、トータルスコアが出なかった学生を除く。

別紙 2-3

学群1年次 TOEIC® IPテスト得点分布比較

トータルスコア: 30点台刻み	令和2年度 (2,117人)	令和3年度 (人)	令和4年度 (人)
970	7		
940	17		
910	22		
880	27		
850	23		
820	56		
790	51		
760	80		
730	59		
700	111		
670	116		
640	133		
610	145		
580	153		
550	209		
520	157		
490	153		
460	156		
430	100		
400	80		
370	60		
340	51		
310	27		
280	31		
250	28		
220	16		
190	20		
160	9		
130	9		
100	6		
70	2		
40	2		
39以下	1		

得点分布 (スコア)	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	(人数)	(比率: %)								
910-990	46	2.17								
820-909	106	5.01								
730-819	190	8.97								
730点以上 小計	342	16.15	-		-		-		-	
640-729	360	17.01								
550-639	507	23.95								
460-549	466	22.01								
370-459	240	11.34								
369以下	202	9.54								
729点以下 小計	1,775	83.85	-		-		-		-	
合計	2,117	100.00	-		-		-		-	

得点分布	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	(人数)	(平均点)								
上位 1/3	706	746.5								
中間 1/3	706	571.1								
下位 1/3	705	400.3								
合計/全体平均点	2,117	572.7	-		-		-		-	

※ 受験者のうち、一部科目等を受験せず、トータルスコアが出なかつた学生を除く。

## 令和2年度 学群3年次 TOEIC® IPテスト受験状況について

1. 実施日 令和2年11月19日(木)～11月25日(水)  
令和3年1月14日(木)～1月20日(水) (追加テスト)

## 2. 実施状況

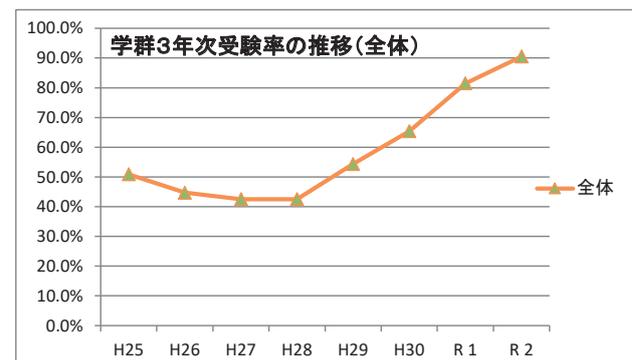
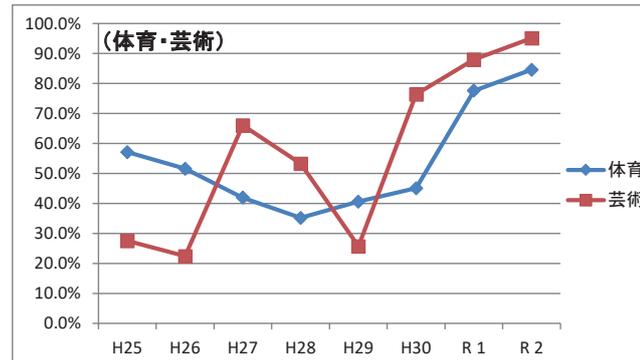
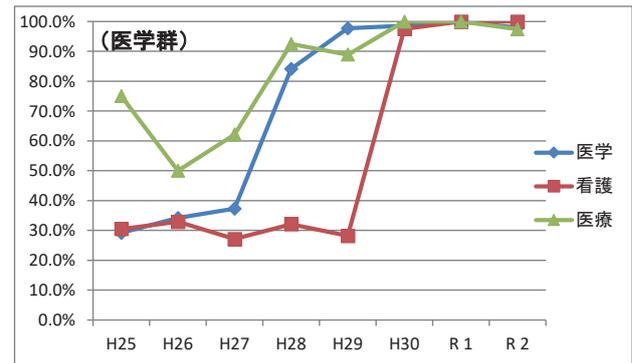
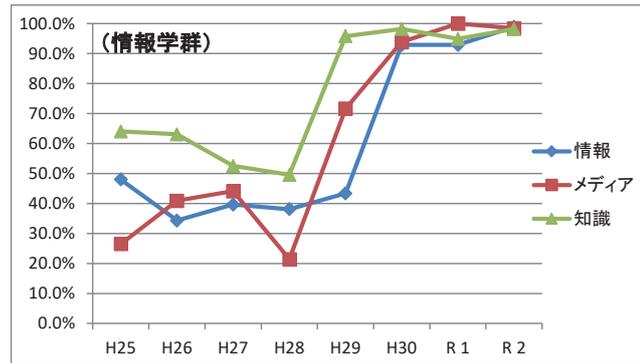
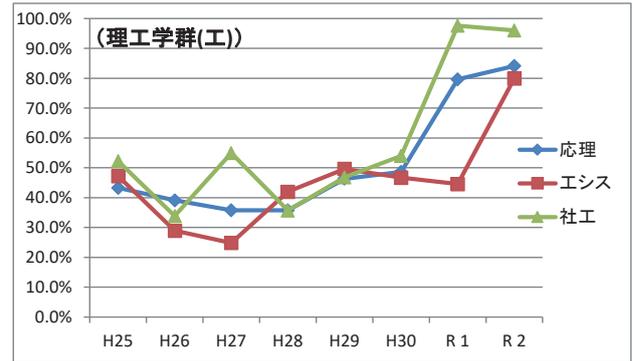
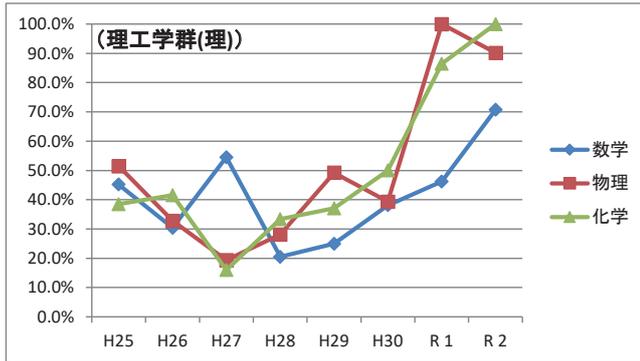
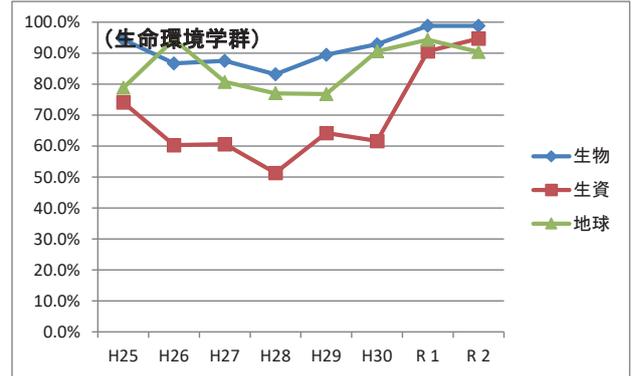
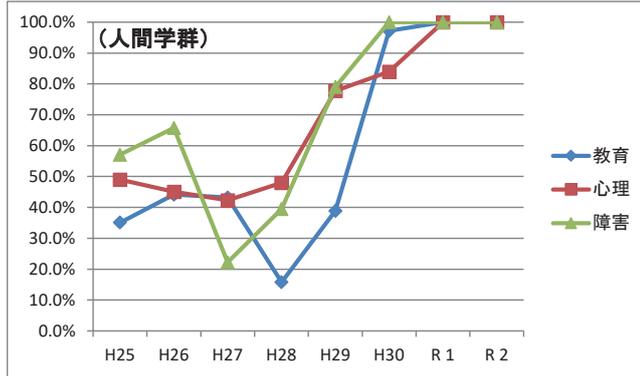
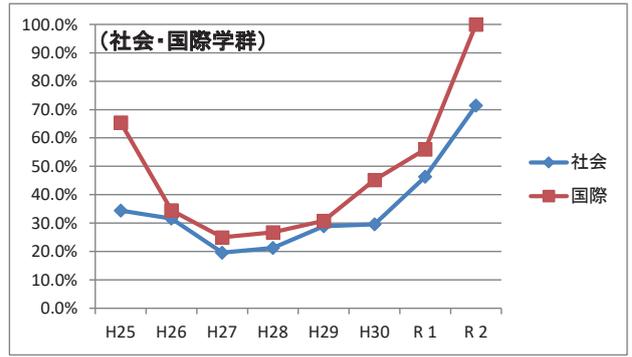
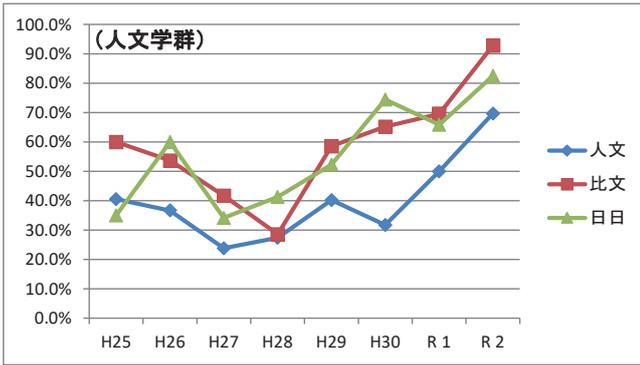
学群	学類	(人)								<参考>
		全対象者	11月 受験者	欠席者	受験率	追加IP 受験者	全受験者	未受験者	受験率	R1 受験率 (TOEFL)
人文・文化学群	人文学類	122	79	43	64.8%	6	85	37	69.7%	50.0%
	比較文化学類	83	72	11	86.7%	5	77	6	92.8%	69.6%
	日本語・日本文化学類	40	30	10	75.0%	3	33	7	82.5%	65.9%
社会・国際学群	社会学類	91	63	28	69.2%	2	65	26	71.4%	46.3%
	国際総合学類	77	75	2	97.4%	2	77	0	100.0%	56.0%
人間学群	教育学類	37	36	1	97.3%	1	37	0	100.0%	100.0%
	心理学類	51	51	0	100.0%	-	51	0	100.0%	100.0%
	障害科学類	38	34	4	89.5%	4	38	0	100.0%	100.0%
生命環境学群	生物学類	80	79	1	98.8%	0	79	1	98.8%	98.8%
	生物資源学類	133	125	8	94.0%	1	126	7	94.7%	90.6%
	地球学類	52	45	7	86.5%	2	47	5	90.4%	94.3%
理工学群	数学類	41	27	14	65.9%	2	29	12	70.7%	46.2%
	物理学類	61	52	9	85.2%	3	55	6	90.2%	100.0%
	化学類	51	51	0	100.0%	-	51	0	100.0%	86.5%
	応用理工学類	132	104	28	78.8%	7	111	21	84.1%	79.6%
	工学システム学類	139	100	39	71.9%	11	111	28	79.9%	44.6%
	社会工学類	124	118	6	95.2%	1	119	5	96.0%	97.6%
情報学群	情報科学類	94	88	6	93.6%	5	93	1	98.9%	92.9%
	情報メディア創成学類	64	61	3	95.3%	2	63	1	98.4%	100.0%
	知識情報・図書館学類	112	108	4	96.4%	2	110	2	98.2%	94.9%
医学群	医学類	140	137	3	97.9%	0	137	3	97.9%	100.0%
	看護学類	82	82	0	100.0%	-	82	0	100.0%	100.0%
	医療科学類	39	38	1	97.4%	0	38	1	97.4%	100.0%
体育専門学群		246	201	45	81.7%	7	208	38	84.6%	77.6%
芸術専門学群		103	92	11	89.3%	6	98	5	95.1%	88.0%
合計		2,232	1,948	284	87.3%	72	2,020	212	90.5%	81.5%

【備考】 対象者数には、英語が母語の者、英語プログラム学生及び2020年11月現在で  
休学中、留学中の者は含まない。

Japan Expertプログラム学生7名(日3、資源1、看護2、芸術1)を含む

	全申請者	11月 受験者	追加IP 受験者	全受験者	受験率
秋学期入学者	8	5	3	8	100.0%
4年次以上の受験者	32	16	11	27	84.4%

学群3年次 組織別受験率の推移



令和2年度 学群3年次 TOEIC® IP (追加) テスト スコア一覧

別紙 4-1

学群	学類	全対象者数	追加対象者数	追加受験者数	最高点			最低点			平均			令和2年11月実施		令和2年度全体	
					Listening score	Reading score	Total score	Listening score	Reading score	Total score	Listening score	Reading score	Total score	受験者数	Total score (平均)	受験者数	Total score (平均)
人文・文 化学群	人文学類	122	43	6	320	265	585	100	60	185	198.3	168.3	366.7	79	533.4	85	521.6
	比較文化学類	83	11	5	350	315	665	70	45	115	220.0	169.0	389.0	72	623.2	77	608.0
	日本語・日本文化学類	40	10	3	375	280	655	160	180	340	285.0	246.7	531.7	30	559.8	33	557.3
社会・国 際学群	社会学類	91	28	2	320	245	565	175	150	325	247.5	197.5	445.0	63	602.8	65	597.9
	国際総合学類	77	2	2	340	325	605	270	265	595	305.0	295.0	600.0	75	712.3	77	709.4
	教育学類	37	1	1	255	255	510	255	255	510	255.0	255.0	510.0	36	581.7	37	579.7
人間学群	心理学類	51	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	51	635.5	51	635.5
	障害科学類	38	4	4	385	380	765	205	230	435	296.3	275.0	571.3	34	598.2	38	595.4
	生物学類	81	1	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	79	639.2	79	639.2
生命環境 学群	生物資源学類	133	8	1	255	205	460	255	205	460	255.0	205.0	460.0	125	603.1	126	602.0
	地球学類	52	7	2	400	325	725	280	315	595	340.0	320.0	660.0	45	582.4	47	585.7
	数学類	41	14	2	175	130	305	160	85	245	167.5	107.5	275.0	27	482.4	29	468.1
理工学群	物理学類	61	9	3	285	130	375	120	65	230	216.7	101.7	318.3	52	477.3	55	468.6
	化学類	51	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	51	480.0	51	480.0
	応用理工学類	132	28	7	340	360	690	185	180	365	294.3	257.9	552.1	104	593.5	111	590.9
情報学群	工学システム学類	139	39	11	415	405	790	255	85	355	338.2	270.0	608.2	100	591.6	111	593.2
	社会工学類	124	6	1	285	150	435	285	150	435	285.0	150.0	435.0	118	597.1	119	595.8
	情報科学類	94	6	5	280	190	460	160	80	265	222.0	122.0	344.0	88	582.3	93	569.5
医学群	情報メディア創成学類	64	3	2	340	220	560	95	85	180	217.5	152.5	370.0	61	647.1	63	638.3
	知能情報・図書館学類	112	4	2	340	280	595	305	255	585	322.5	267.5	590.0	108	572.4	110	572.7
	医学類	140	3	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	137	643.5	137	643.5
体育専門学群 芸術専門学群	看護学類	82	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	82	485.1	82	485.1
	医療科学類	39	1	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	38	635.0	38	635.0
	全体	2,233	284	72	415	405	790	70	45	115	258.9	205.6	464.4	1,948	566.3	2,020	562.6

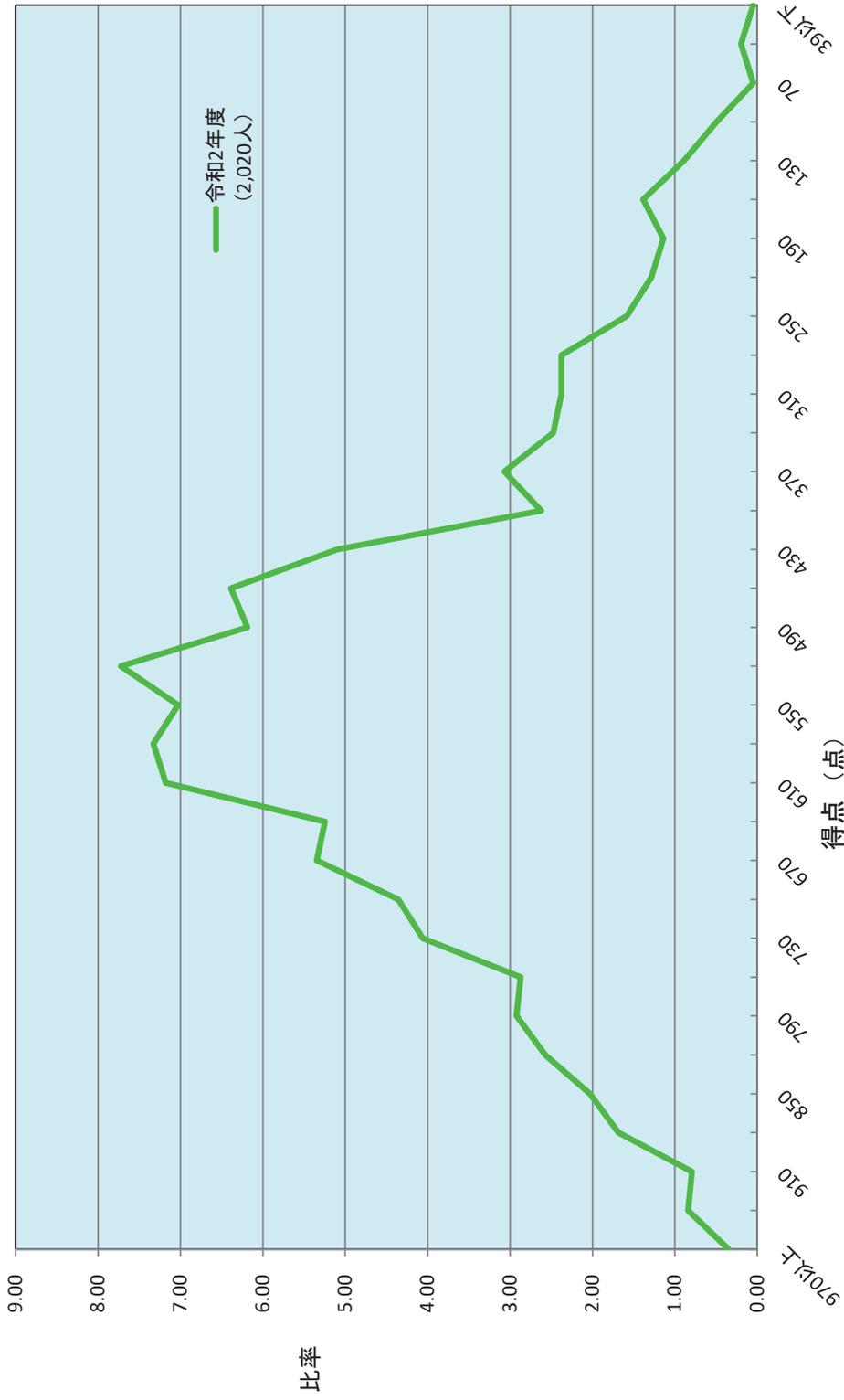
\* Listening Score (5-495), Reading Score(5-495), Total score(10-990)

\* 最高点・最低点は各セクションにおける当該組織の受験者中の最高・最低の点数を示す。

\* 平均欄のTotal scoreの点数は、全受験者の点数を合算し、受験者数で除算のうえ算出。

(一部受験しない科目があり、合計スコアがない受験者がいる場合は、当該学生の所属の平均は当該学生を除外して算出)

学群3年次生 TOEIC® IPテスト 得点による人数比率分布



トータルスコア: 30点台刻み	令和2年度 (2,020人)
970以上	0.35
940	0.84
910	0.79
880	1.68
850	2.03
820	2.57
790	2.92
760	2.87
730	4.06
700	4.36
670	5.35
640	5.25
610	7.18
580	7.33
550	7.03
520	7.72
490	6.19
460	6.39
430	5.10
400	2.62
370	3.07
340	2.48
310	2.38
280	2.38
250	1.58
220	1.29
190	1.14
160	1.39
130	0.89
100	0.50
70	0.05
40	0.20
39以下	0.05

※ 受験者のうち、一部科目等を受験せず、トータルスコアが出なかった学生を除く。

別紙 4-3

令和2年度 学群3年次 TOEIC® IPテスト得点分布

得点分布 (スコア)	令和2年度11月		令和2年度追加		令和2年度総合	
	(人数)	(比率:%)	(人数)	(比率:%)	(人数)	(比率:%)
910-990	40	2.05	-	0.00	40	1.98
820-909	127	6.52	-	0.00	127	6.29
730-819	195	10.01	4	5.56	199	9.85
730点以上 小計	362	18.58	4	5.56	366	18.12
640-729	294	15.09	8	11.11	302	14.95
550-639	419	21.51	16	22.22	435	21.53
460-549	399	20.48	11	15.28	410	20.30
370-459	208	10.68	10	13.89	218	10.79
369点以下	266	13.66	23	31.94	289	14.31
699点以下 小計	1,586	81.42	68	94.44	1,654	81.88
合計	1,948	100.00	72	100.00	2,020	100.00

得点分布	令和2年度11月		令和2年度追加		令和2年度総合	
	(人数)	(平均点)	(人数)	(平均点)	(人数)	(平均点)
上位 1/3	649	758.6	24	646.3	673	755.4
中間 1/3	650	569.9	24	484.0	674	567.1
下位 1/3	649	370.3	24	263.1	673	365.4
合計/全体平均点	1,948	566.3	72	464.4	2,020	562.6

トータルスコア: 30点台刻み	R2.11 (1,948人)	R3.1 (72人)	令和2年度 総合
970	7	0	7
940	17	0	17
910	16	0	16
880	34	0	34
850	41	0	41
820	52	0	52
790	58	1	59
760	57	1	58
730	80	2	82
700	87	1	88
670	105	3	108
640	102	4	106
610	144	1	145
580	138	10	148
550	137	5	142
520	153	3	156
490	121	4	125
460	125	4	129
430	97	6	103
400	51	2	53
370	60	2	62
340	45	5	50
310	44	4	48
280	46	2	48
250	31	1	32
220	23	3	26
190	22	1	23
160	24	4	28
130	17	1	18
100	8	2	10
70	1	0	1
40	4	0	4
39以下	1	0	1

※ 受験者のうち、一部科目等を受験せず、トータルスコアが出なかった学生を除く。

## 令和3年度 TOEIC® IP テスト実施結果について（報告）

今年度学群3年次対象の TOEIC® IP テストを令和3年11月22日（月）から29日（月）と令和4年1月13日（木）から1月19日（水）（追加テスト）の2回、オンライン方式で実施しました。

その受験結果について、以下のとおり報告いたします。

### 【学群3年次対象】

#### ■実施日

①令和3年11月22日（月）～29日（月） 8日間

②令和4年1月13日（木）～19日（水） 7日間

■試験会場等 自宅、学内（CA棟教室等）、その他

■受験対象者数 2,226名（昨年度2,232名）

■受験者数 2,127名（①2,057名、②70名）（昨年度2,020名）

■受験率 95.6%（①92.4%、②3.2%）（昨年度90.5%）

#### ■資料（別紙）

##### 1. 受験状況について

- ・令和3年度学群3年次 TOEIC® IP テスト受験状況について（別紙1）
- ・学群3年次組織別受験率の推移（参考）

##### 2. TOEIC® IP テストスコアについて

- ・令和3年度学群3年次 TOEIC® IP（追加）テストスコア一覧（別紙2-1）
- ・学群3年次 TOEIC® IP テスト得点による人数比率分布（別紙2-2）
- ・学群3年次 TOEIC® IP テスト得点分布（別紙2-3）

- Web 掲示による周知に加え、対象学生全員宛にテスト一週間前までに受験案内メールを送信、テスト期間内にもリマインドメールを送信した。テスト最終日午前中に未受験者に対して最終リマインドメールを送信するなど周知を強化。また、各教育組織の長にも周知依頼を行った。
- 実施前に推奨環境に適合した PC からの受験が困難な学生や WiFi 環境に不安のある学生について調査し、CEGLOC で貸出用 PC を用意し、WiFi 環境の整った CA 棟の教室を受験場所として提供するなどしてサポートを行った。
- オンライン方式では対応不可能な特別配慮を必要とする学生については、テスト期間内にマークシート方式による試験を実施した。
- 過年度の3年次 TOEFL ITP 受験時に休学や留学により、受験の機会を逃した4年次以上の者、科目等とのひも付けにより、当該テスト受験が必須の4年次以上の者に受験機会を与えた。

担当：グローバルコミュニケーション教育センター  
 企画調整（内線 2422）  
 e-mail: cegloc.ks@un.tsukuba.ac.jp

## 令和3年度 学群3年次 TOEIC® IPテスト受験状況について

1. 実施日 令和3年11月22日(月)～ 11月29日(月)

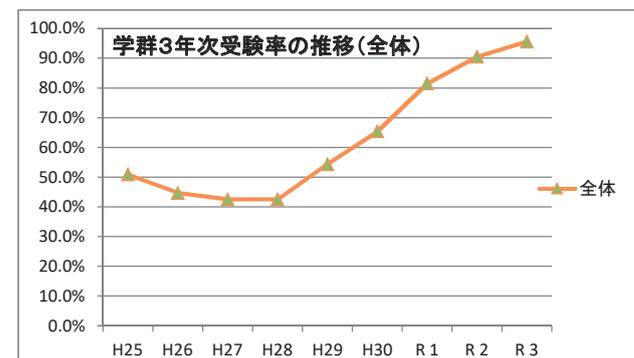
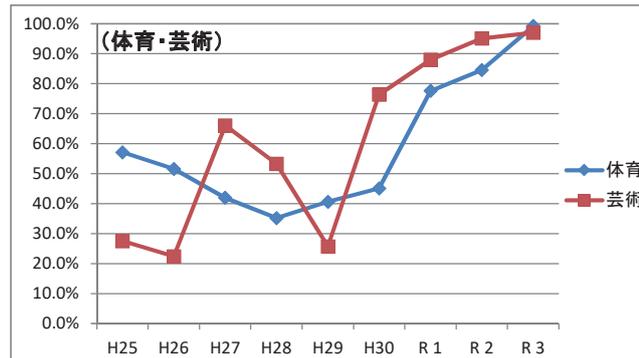
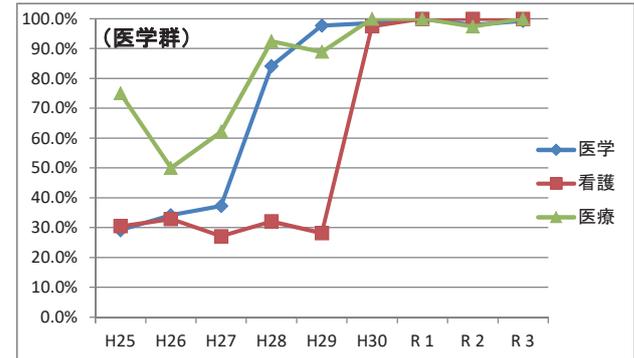
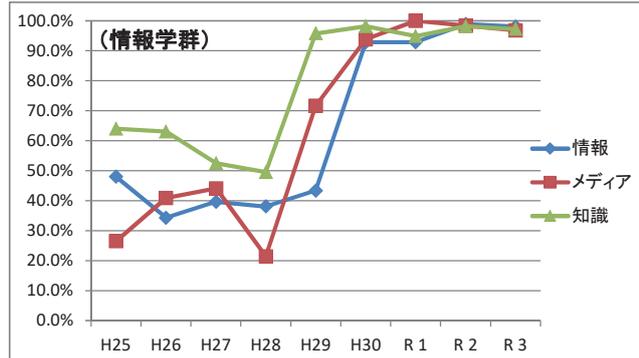
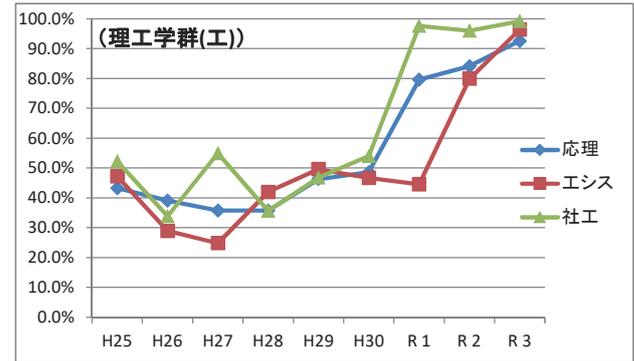
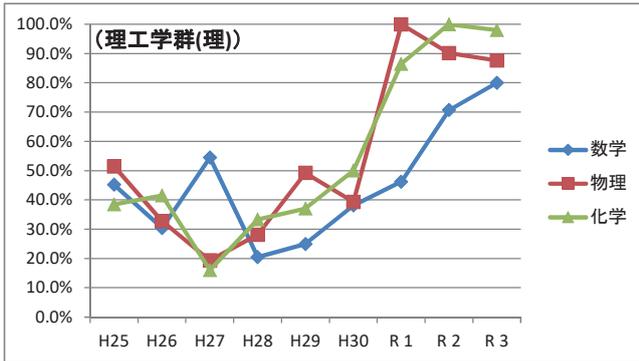
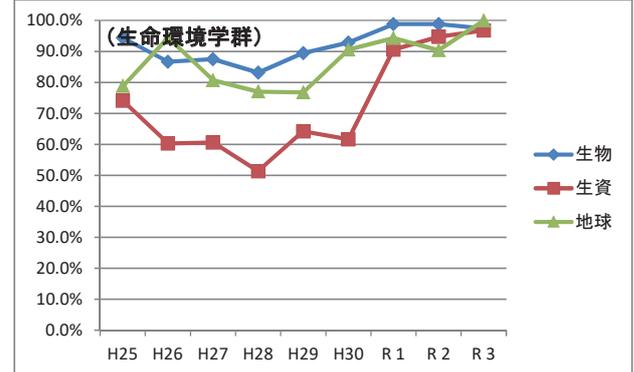
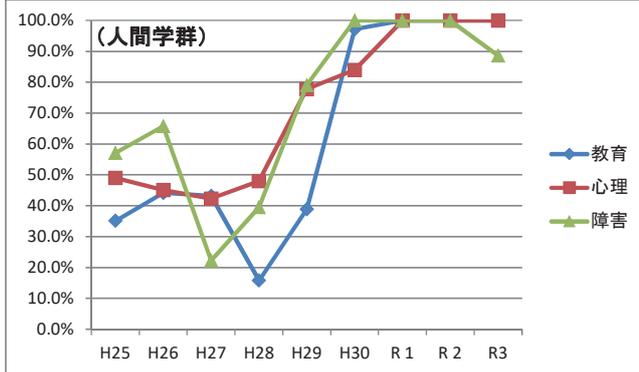
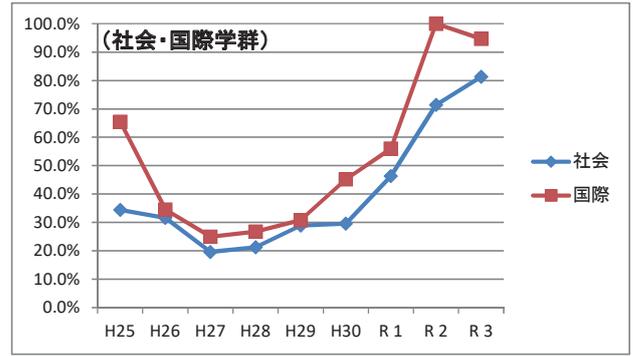
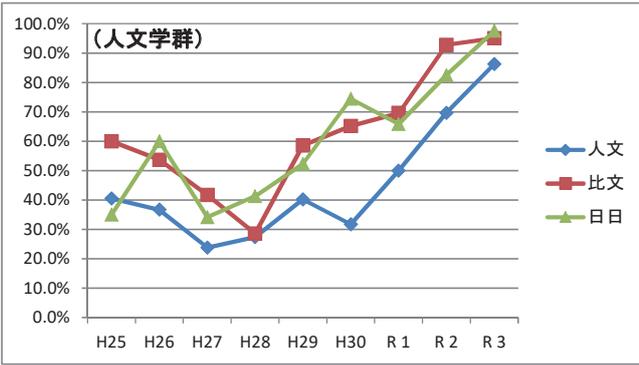
令和4年1月13日(木)～ 1月19日(水) (追加テスト)

## 2. 実施状況

《参考》

学群	学類	全対象者	11月 受験者	欠席者	受験率	追加テスト 1月 受験者	全受験者	未受験者	受験率	R2 受験率
人文・文化学群	人文学類	124	105	19	84.7%	2	107	17	86.3%	69.7%
	比較文化学類	81	71	10	87.7%	6	77	4	95.1%	92.8%
	日本語・日本文化学類	42	40	2	95.2%	1	41	1	97.6%	82.5%
社会・国際学群	社会学類	96	69	27	71.9%	9	78	18	81.3%	71.4%
	国際総合学類	75	68	7	90.7%	3	71	4	94.7%	100.0%
人間学群	教育学類	35	31	4	88.6%	4	35	0	100.0%	100.0%
	心理学類	51	47	4	92.2%	4	51	0	100.0%	100.0%
	障害科学類	35	31	4	88.6%	0	31	4	88.6%	100.0%
生命環境学群	生物学類	78	74	4	94.9%	2	76	2	97.4%	98.8%
	生物資源学類	126	115	11	91.3%	7	122	4	96.8%	94.7%
	地球学類	52	50	2	96.2%	2	52	0	100.0%	90.4%
理工学群	数学類	40	31	9	77.5%	1	32	8	80.0%	70.7%
	物理学類	57	48	9	84.2%	2	50	7	87.7%	90.2%
	化学類	51	50	1	98.0%	0	50	1	98.0%	100.0%
	応用理工学類	136	119	17	87.5%	7	126	10	92.6%	84.1%
	工学システム学類	137	131	6	95.6%	1	132	5	96.4%	79.9%
	社会工学類	126	122	4	96.8%	3	125	1	99.2%	96.0%
情報学群	情報科学類	106	104	2	98.1%	0	104	2	98.1%	98.9%
	情報メディア創成学類	63	61	2	96.8%	0	61	2	96.8%	98.4%
	知識情報・図書館学類	113	105	8	92.9%	5	110	3	97.3%	98.2%
医学群	医学類	139	138	1	99.3%	0	138	1	99.3%	97.9%
	看護学類	79	79	0	100.0%	0	79	0	100.0%	100.0%
	医療科学類	38	38	0	100.0%	0	38	0	100.0%	97.4%
体育専門学群		246	235	11	95.5%	9	244	2	99.2%	84.6%
芸術専門学群		100	95	5	95.0%	2	97	3	97.0%	95.1%
合 計		2,226	2,057	169	92.4%	70	2,127	99	95.6%	90.5%

【備考】 対象者数には、英語が母語の者、留学中、休学中の者を含まない。



## 令和3年度 学群3年次 TOEIC® IP (追加) テスト スコア一覧

学群	学類	全対象者 対象者	追加 対象者	追加 受験 者数	最高点			最低点			平均			令和3年11月実施		令和3年度全体	
					Listening score	Reading score	Total score	Listening score	Reading score	Total score	Listening score	Reading score	Total score	受験 者数	Total score (平均)	受験 者数	Total score (平均)
人文・文 化学群	人文学類	124	19	2	320	325	645	255	180	435	287.5	252.5	540.0	105	575.4	107	574.7
	比較文学類	81	10	6	350	250	600	230	165	430	290.8	209.2	500.0	71	612.5	77	603.7
	日本語・日本文化学類	42	2	1	165	70	235	165	70	235	165.0	70.0	235.0	40	570.8	41	562.6
社会・国 際学群	社会学類	96	27	9	395	415	775	155	70	225	291.7	271.7	563.3	69	601.7	78	597.2
	国際総合学類	75	7	3	485	400	885	220	165	385	366.7	291.7	658.3	68	735.4	71	732.2
	教育学類	35	4	4	420	400	820	65	55	120	295.0	255.0	550.0	31	545.0	35	545.6
人間学群	心理学類	51	4	4	485	415	900	265	265	530	366.3	340.0	706.3	47	594.0	51	602.8
	障害科学類	35	4	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	31	554.2	31	554.2
	生物学類	78	4	2	340	180	520	335	180	515	337.5	180.0	517.5	74	618.1	76	615.5
生命環境 学群	生物資源学類	126	11	7	435	325	720	165	45	210	330.0	210.7	540.7	115	629.3	122	624.2
	地球学類	52	2	2	210	235	420	185	180	390	197.5	207.5	405.0	50	617.9	52	609.7
	数学類	40	9	1	220	310	530	220	310	530	220.0	310.0	530.0	31	515.8	32	516.3
理工学群	物理学類	57	9	2	210	225	425	200	180	390	205.0	202.5	407.5	48	519.4	50	514.9
	化学類	51	1	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50	485.9	50	485.9
	応用理工学類	136	17	7	385	380	765	95	165	275	264.3	241.4	505.7	119	576.9	126	572.9
情報学群	工学システム学類	137	6	1	210	120	330	210	120	330	210.0	120.0	330.0	131	644.5	132	642.1
	社会工学類	126	4	3	320	370	680	95	55	150	241.7	236.7	478.3	122	597.9	125	595.0
	情報科学類	106	2	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	104	643.2	104	643.2
医学群	情報メディア創成学類	63	2	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	61	655.7	61	655.7
	知識情報・図書館学類	113	8	5	470	425	870	165	110	275	323.0	273.0	596.0	105	549.5	110	551.6
	医学類	139	1	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	138	652.0	138	652.0
体育専門学群	看護学類	79	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	79	517.3	79	517.3
	医療科学類	38	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	38	575.3	38	575.3
	芸術専門学群	246	11	9	320	300	565	75	40	115	203.9	164.4	368.3	235	396.7	244	395.7
芸術専門学群	100	5	2	220	155	375	140	35	175	180.0	95.0	275.0	95	501.0	97	496.3	
	<b>全体</b>	<b>2,226</b>	<b>169</b>	<b>70</b>	<b>415</b>	<b>405</b>	<b>790</b>	<b>70</b>	<b>45</b>	<b>115</b>	<b>258.9</b>	<b>205.6</b>	<b>464.4</b>	<b>2,057</b>	<b>573.0</b>	<b>2,127</b>	<b>570.8</b>

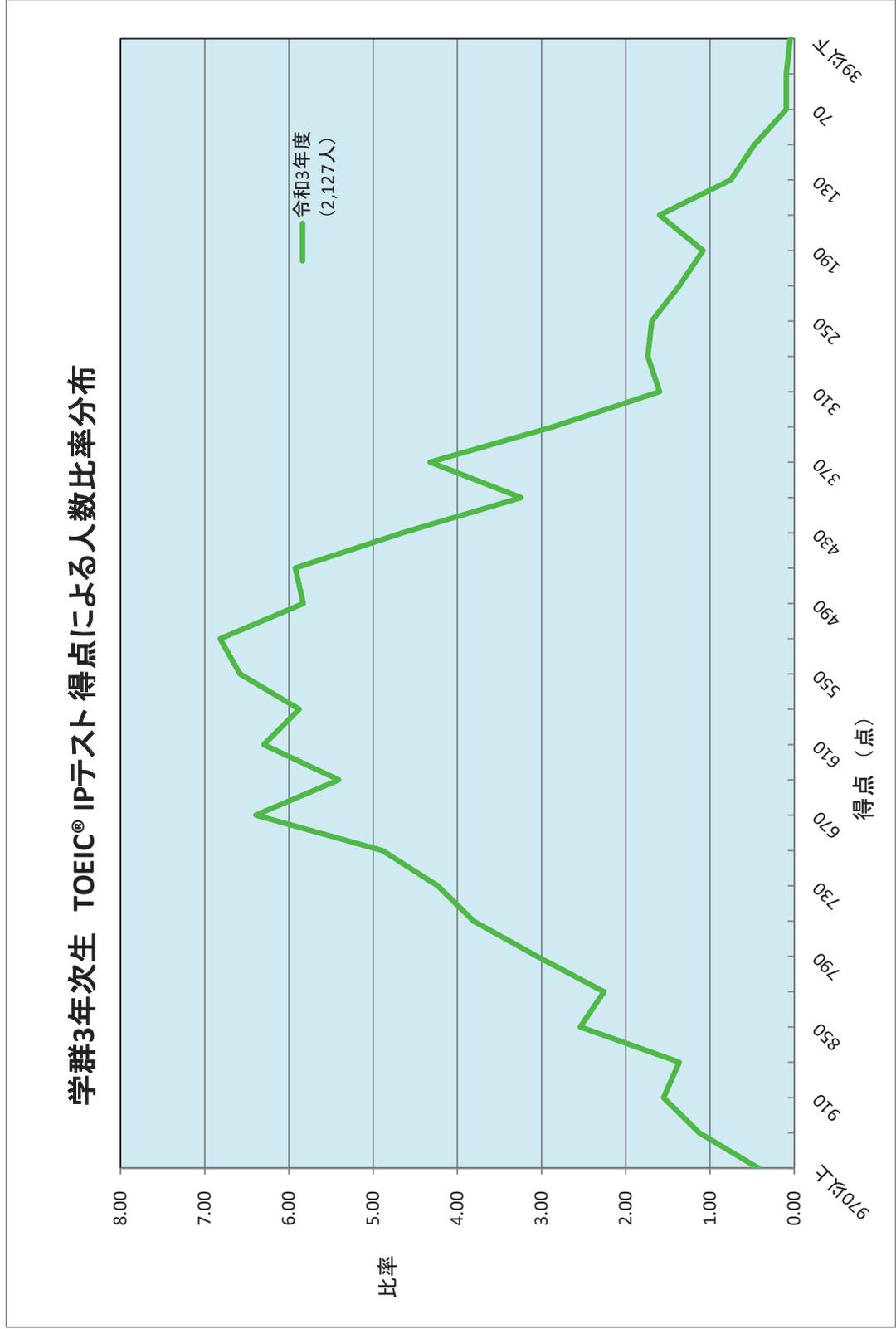
\* Listening Score (5-495), Reading Score (5-495), Total score (10-990)

\* 最高点・最低点は各セクションにおける当該組織の受験者中の最高・最低の点数を示す。

\* 平均欄のTotal scoreの全体欄の点数は、全受験者の点数を合算し、受験者数で除算のうえ算出。

(一部受験しない科目があり、合計スコアがない受験者がいる場合は、当該学生の所属の平均は当該学生を除外して算出)

学群3年次生 TOEIC® IPテスト 得点による人数比率分布



トータルスコア: 30点台刻み	令和3年度 (2,127人)
970以上	0.42
940	1.13
910	1.55
880	1.36
850	2.54
820	2.26
790	3.06
760	3.81
730	4.23
700	4.89
670	6.39
640	5.41
610	6.30
580	5.88
550	6.58
520	6.82
490	5.83
460	5.92
430	4.65
400	3.24
370	4.33
340	2.87
310	1.60
280	1.74
250	1.69
220	1.36
190	1.08
160	1.60
130	0.75
100	0.47
70	0.09
40	0.09
39以下	0.05

令和3年度 学群3年次 TOEIC® IPテスト得点分布

トータルスコア: 30点台刻み	R3.11 (2,057人)	R4.1 (70人)	令和3年度 (2,127人)
970	9	0	9
940	24	0	24
910	33	0	33
880	27	2	29
850	53	1	54
820	47	1	48
790	64	1	65
760	79	2	81
730	88	2	90
700	102	2	104
670	132	4	136
640	111	4	115
610	133	1	134
580	121	4	125
550	133	7	140
520	139	6	145
490	122	2	124
460	123	3	126
430	93	6	99
400	66	3	69
370	87	5	92
340	61	0	61
310	32	2	34
280	37	0	37
250	33	3	36
220	26	3	29
190	22	1	23
160	33	1	34
130	15	1	16
100	7	3	10
70	2	0	2
40	2	0	2
39以下	1	0	1

得点分布 (スコア)	令和3年度11月		令和3年度追加		令和3年度総合	
	(人数)	(比率:%)	(人数)	(比率:%)	(人数)	(比率:%)
910-990	66	3.21	-	0.00	66	3.10
820-909	127	6.17	4	5.71	131	6.16
730-819	231	11.23	5	7.14	236	11.10
730点以上 小計	424	20.61	9	12.86	433	20.36
640-729	345	16.77	10	14.29	355	16.69
550-639	387	18.81	12	17.14	399	18.76
460-549	384	18.67	11	15.71	395	18.57
370-459	246	11.96	14	20.00	260	12.22
369以下	271	13.17	14	20.00	285	13.40
699点以下 小計	1,633	79.39	61	87.14	1,694	79.64
合計	2,057	100.00	70	100.00	2,127	100.00

得点分布	令和3年度11月		令和3年度追加		令和3年度総合	
	(人数)	(平均点)	(人数)	(平均点)	(人数)	(平均点)
上位 1/3	686	772.2	24	712.1	709	770.8
中間 1/3	686	577.7	23	511.3	709	575.8
下位 1/3	685	368.7	23	289.6	709	365.9
合計/全体平均点	2,057	573.0	70	507.3	2,127	570.8

# 〔報告資料4〕

令和3年度学群4 学類 (医学類 [138人]、生物学類 [21人]、生物資源学類 [16人]、国際総合学類 [11人]) 3年次TOEIC®IPテスト (4技能) の実施結果について

Test of English for International Communication

## Score Data Checkup

### 1.【基礎情報】

団体コード	貴団体名
360187	筑波大学

テスト	申込番号	実施開始日	実施終了日
L&R	OTLR014380	2021/11/22	2021/11/29
S&W	OTS001422-4	2021/11/23	2021/11/29

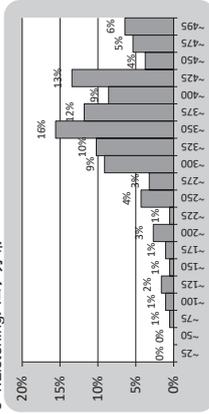
※申込番号後数値指定の場合、直近の申込番号が表示されます

### 2-1.【基本データ】

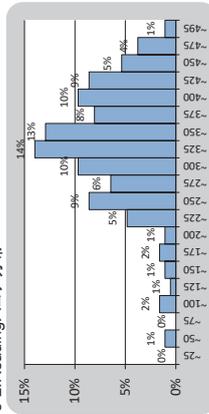
基本データ	L&R		S&W		Total
	Listening	Reading	Speaking	Writing	
受験者数	186		186		186
平均値	347.5	322.5	106.9	141.0	689.9
中央値	350	325	110	150	675
最頻値	410	325	110	150	720
標準偏差	87.7	86.9	29.9	29.7	166.0
範囲	420	455	200	180	845
最小値	75	40	0	10	145
最大値	495	495	200	190	990

### 3.【スコア分布】

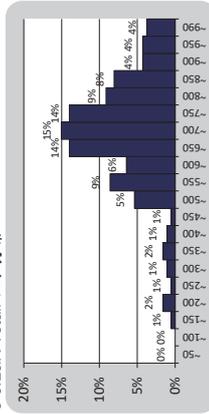
3-1. Listeningスコア分布



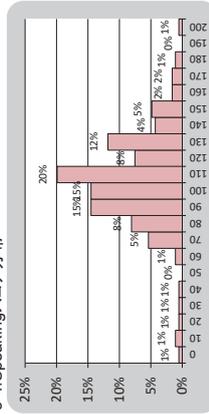
3-2. Readingスコア分布



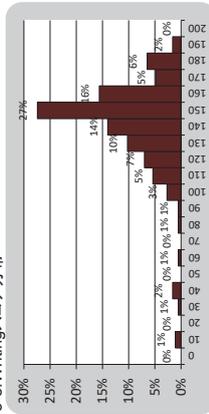
3-3. L&R Totalスコア分布



3-4. Speakingスコア分布



3-5. Writingスコア分布



### 4.技能マッピングデータ

(注) Speaking-Writingスコアの平均値は各々計算し表示された値の1つ下の位の小数点を四捨五入しています

(注) %の値は0.1%の位を四捨五入しているため表示された値が0%の場合でもデータが存在する(グラフデータが表示される)可能性があります

### 4.【予実差に関する分析】

4-1. 予実差(実測値-予測値)の平均

■分析手法: 各受験者の実際のL&R TotalスコアからS&Wの各スコアを予測し、実際のS&Wの各スコアとの差(実測値-予測値)を取る。

Speaking	Writing
▲17.75	9.69

### 4-2. フラグ別データ

■分析手法: 各受験者の予実差に対して、下記フラグルールに沿ってA~Dのフラグを立てる。

フラグルール

- A: 予実差 > 0 → 予測スコアを越えている
- B: -10 < 予実差 ≤ 0 → ほぼ予測の範囲内
- C: -20 < 予実差 ≤ -10 → 誤差を加味しても予測を下回っている
- D: 予実差 < -20 → さらに下回っている

Speakingフラグ	フラグ説明	受験者数	人数%	Speaking平均	L&R Total平均
A	予測スコアより上	37	20%	122.7	580.5
B	-10 < 予実差 ≤ 0	33	18%	124.5	703.8
C	-20 < 予実差 ≤ -10	31	17%	113.9	698.4
D	予実差 ≤ -20	85	46%	90.7	685.4
計		186	100%		

Writingフラグ	フラグ説明	受験者数	人数%	Writing平均	L&R Total平均
A	予測スコアより上	125	67%	148.8	638.9
B	-10 < 予実差 ≤ 0	32	17%	146.9	793.3
C	-20 < 予実差 ≤ -10	12	6%	121.7	703.8
D	予実差 ≤ -20	17	9%	85.9	642.4
計		186	100%		

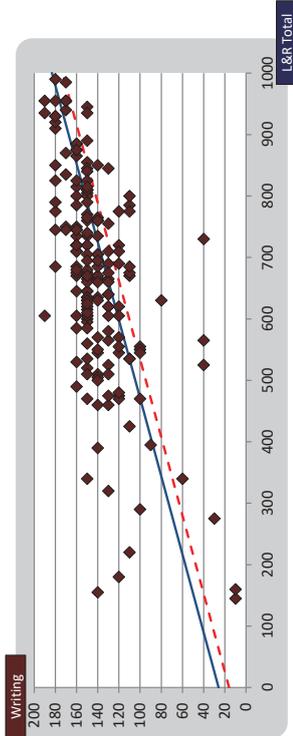
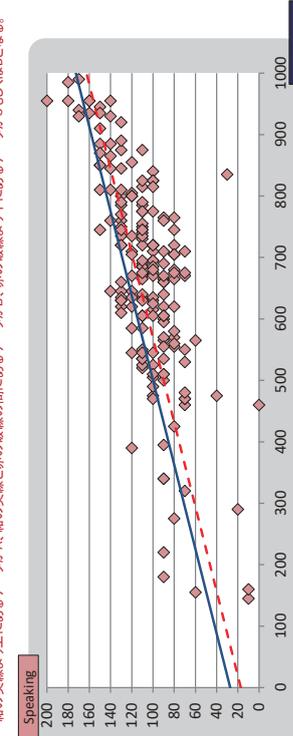
### 4-3. プロットデータ

■分析手法: 各受験者のL&R Totalスコア(横軸)とS&Wの各スコア(縦軸)を散布図にプロットする。

■分析手法: 実際のL&R Totalスコアより予測されるS&Wの各スコアをもとに表記した線。

■分析手法: S&Wの各予測スコアより10点低いスコアをもとに表記した線。

■分析手法: 赤の実線より上にあるデータがA、紺の実線と赤の実線の間にあるデータがB、赤の実線より下にあるデータがCもしくはDとなる。



[報告資料5]

Test of English for International Communication  
Score Data Checkup

1.【基礎情報】

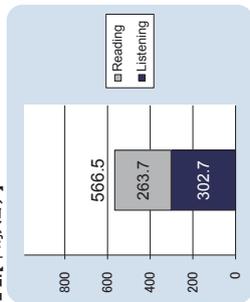
申込番号	OTLIR004604	団体コード	360187	貴団体名	筑波大学	学年指定	2020/11/19	実施終了日	2020/11/25
------	-------------	-------	--------	------	------	------	------------	-------	------------

\*申込番号重複指定の場合、直近の申込番号が優先されます

2.1【基本データ】

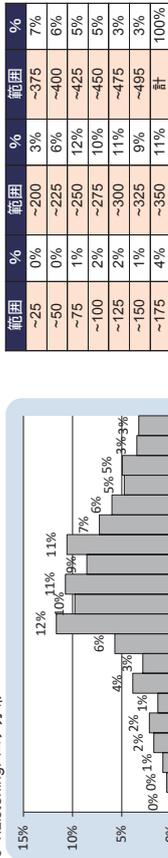
基本データ	Listening	Reading	Total
受験者数	1966		
平均値	302.7	263.7	566.5
中央値	300	270	570
最頻値	300	285	545
標準偏差	96.3	94.0	178.6
範囲	490	490	960
最小値	5	5	30
最大値	495	495	990

2.2【平均スコア】

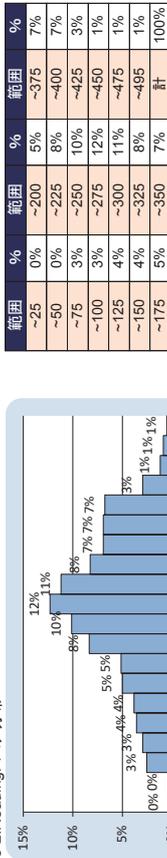


3.【スコア分布】

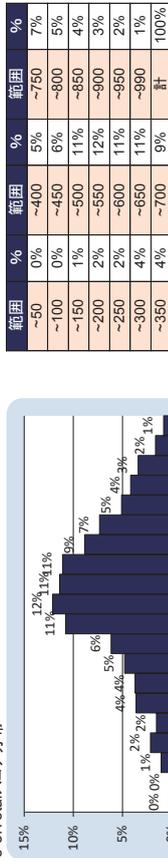
3-1. Listeningスコア分布



3-2. Readingスコア分布



3-3. Totalスコア分布



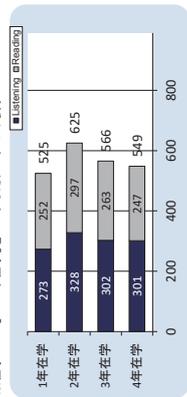
TOEIC® L&R イテスト 学校 (大学)

(注) %の値は0.1%の位を四捨五入しているため表示された値が0%の場合でもデータが存在する(グラフ上で表示されない)可能性があります

4.【在学年別スコア】

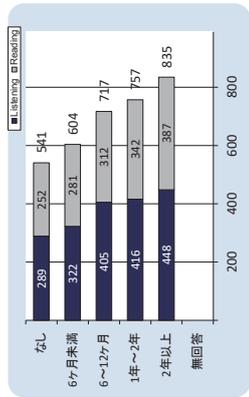
在学年	人数	Listening	Reading	Total
1年在学	3	273	252	525
2年在学	24	328	297	625
3年在学	1909	302	263	566
4年在学	21	301	247	549

※在学0~10(1~4年在学)をマークした上で90のみ表示



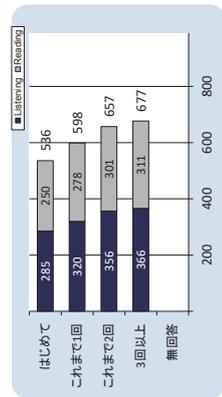
5.【海外滞在経験別スコア】

海外滞在経験	人数	Listening	Reading	Total
なし	1348	289	252	541
6ヶ月未満	552	322	281	604
6~12ヶ月	23	405	312	717
1年~2年	13	416	342	757
2年以上	30	448	387	835
無回答	0	-	-	-



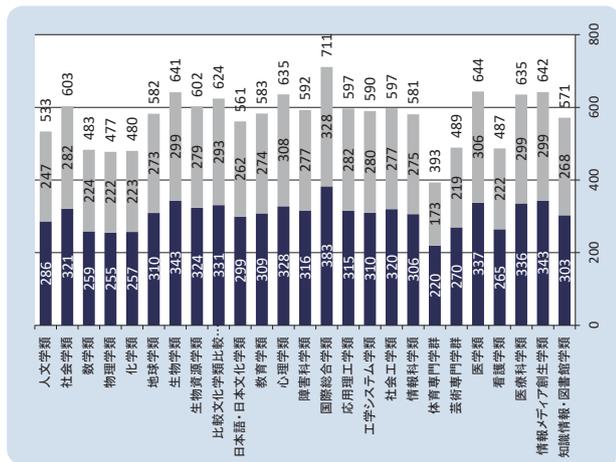
6.【TOEIC® L&R受験回数別スコア】

受験回数	人数	Listening	Reading	Total
はじめて	1238	285	250	536
これまで1回	514	320	278	598
これまで2回	107	356	301	657
3回以上	107	366	311	677
無回答	0	-	-	-



7.【所属コード別スコア】

グループ名	人数	Listening	Reading	Total
人文学類	79	286	247	533
社会学類	63	321	282	603
数学類	26	259	224	483
物理学類	52	265	222	477
化学類	51	257	223	480
地球学類	46	310	273	583
生物学類	82	343	299	641
生物資源学類	128	324	279	602
比較文化学類・比較文化	71	331	293	624
日本語・日本文化学類	32	299	262	561
教育学類	37	309	274	583
心理学類	51	328	308	635
障害科学類	33	316	277	592
国際総合学類	76	383	328	711
応用理工学類	106	315	282	597
工学システム学類	103	310	280	590
社会工学類	118	320	277	597
情報科学類	90	306	275	581
体育専門学群	201	220	173	393
芸術専門学群	93	270	219	489
医学類	137	337	306	644
看護学類	83	265	222	487
医療科学類	38	336	299	635
情報メディア創生学類	62	343	299	642
知能情報・図書館学類	109	303	268	571



ETS, the ETS logo, PROPELL, TOEIC, TOEIC Bridge, TOEIC Bridge are registered trademarks of Educational Testing Service in the United States, Japan and other countries and used under license. Copyright © The Institute for International Business Communication (IIBC). All rights reserved.



一財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会

# 〔報告資料6〕

Test of English for International Communication

## Score Data Checkup

### 1.【基礎情報】

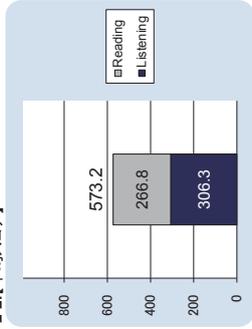
申込番号	360187	団体コード	筑波大学
OTLRO14380		学年指定	2021/11/22
		実施開始日	2021/11/29
		実施終了日	2021/11/29

※申込番号後部指定の場合、直近の申込番号が表示されます

### 2.1【基本データ】

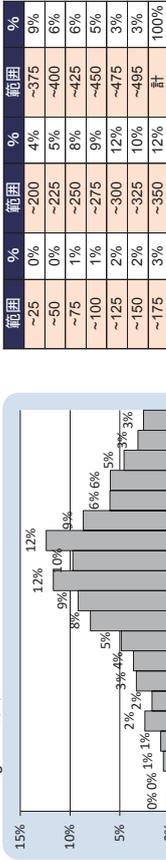
基本データ	受験者数	Listening	Reading	Total
受験者数	2098			
平均値	306.3	266.8	306.3	573.2
中央値	310	270	310	575
最頻値	310	310	310	720
標準偏差	93.8	100.8	93.8	183.7
範囲	490	490	490	965
最小値	5	5	5	25
最大値	495	495	495	990

### 2.2【平均スコア】

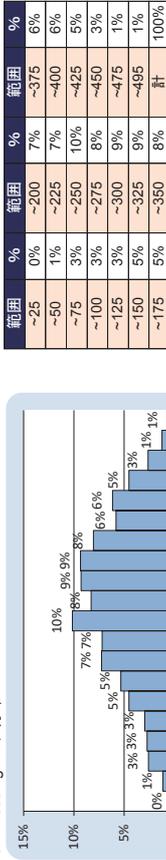


### 3.【スコア分布】

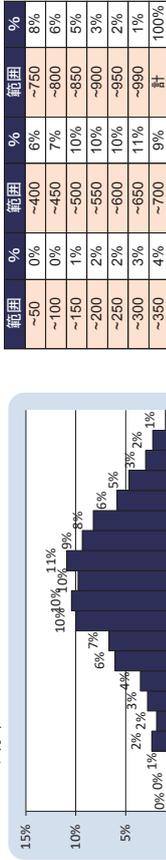
#### 3-1. Listeningスコア分布



#### 3-2. Readingスコア分布



#### 3-3. Totalスコア分布



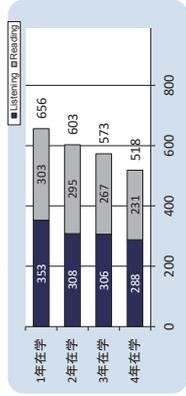
TOEIC® L&R イテスト 学校 (大学)

(注) %の値は0.1%の値を四捨五入しているため表示された値が0%の場合でもデータが存在する(グラフデータが表示されない)可能性があります

### 4.【学年別スコア】

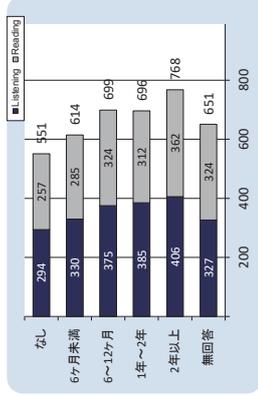
学年	人数	Listening	Reading	Total
1年在学	9	353	303	656
2年在学	23	308	295	603
3年在学	2017	306	267	573
4年在学	23	288	231	518

※在学0~0(1~4年在学)をマークしたデータのみ表示



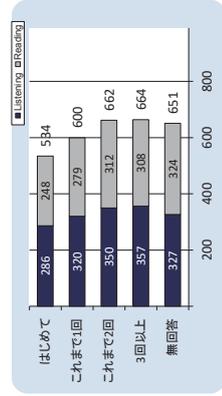
### 5.【海外滞在経験別スコア】

海外滞在経験	人数	Listening	Reading	Total
なし	1520	294	257	551
6ヶ月未満	495	330	285	614
6~12ヶ月	20	375	324	699
1年~2年	13	385	312	696
2年以上	41	406	362	768
無回答	9	327	324	651



### 6.【TOEIC® L&R受験回数別スコア】

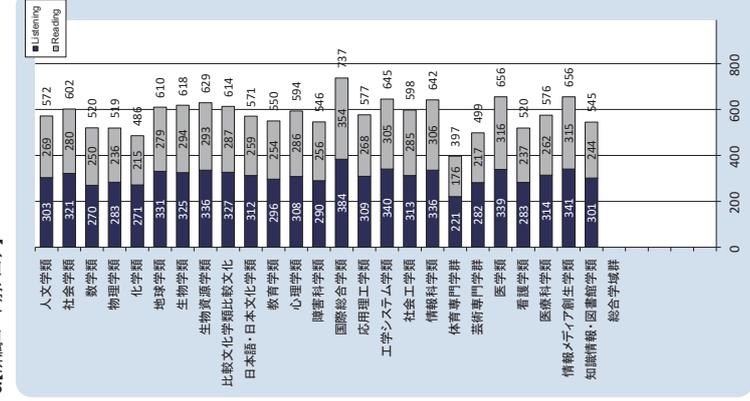
受験回数	人数	Listening	Reading	Total
はじめて	1174	286	248	534
これまで1回	591	320	279	600
これまで2回	189	350	312	662
3回以上	135	357	308	664
無回答	9	327	324	651



### 7.【専攻別スコア】

専攻	人数	Listening	Reading	Total
医学・文学系(薬学専攻)	7	376	306	682
医学・文学系(医歯薬専攻以外)	173	312	273	586
国際関係学系	67	379	348	727
情報科学系	271	328	288	616
商学・経済・経営学系	40	328	295	623
法学系	18	357	329	686
社会学系	49	283	260	543
理・工・農学系	717	316	278	594
医・薬学系	289	318	283	601
教育・教養系	74	301	256	556
その他	414	251	204	455
無回答	9	327	324	651

### 8.【所属コード別スコア】



ETS, the ETS logo, PROPELL, TOEIC and TOEIC BRIDGE are registered trademarks of ETS, Princeton, New Jersey, USA, and used in Japan under license. Portions are copyrighted by ETS and used with permission.

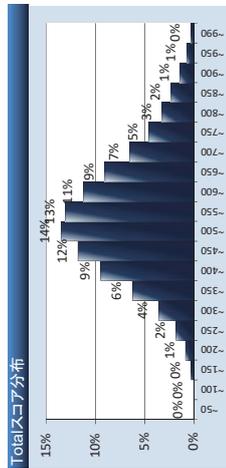
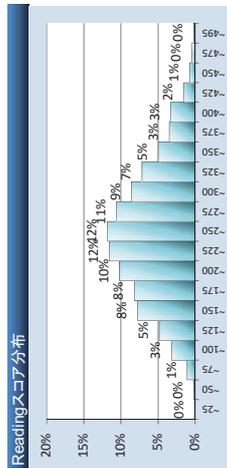
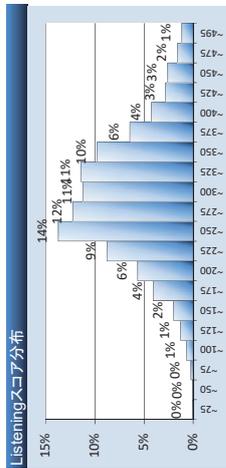
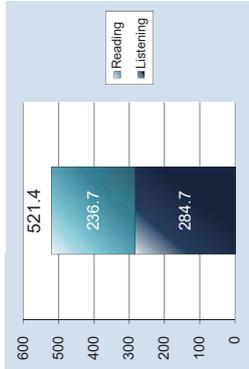


一橋大学 国際コミュニケーションセンター

# 【国公立大学】2020年度 TOEIC® Listening & Reading Test 集計データ

※大学内で実施されたIPテスト受験者のうち、「学校(大学)・学歴(1~4年)」・専攻(マーク欄)に記入されたデータを集計

	99,161	284.7	236.7	521.4
	280	235	510	
	275	245	510	
	80.2	84.0	152.8	
	490	490	980	
	5	5	10	
	495	495	990	

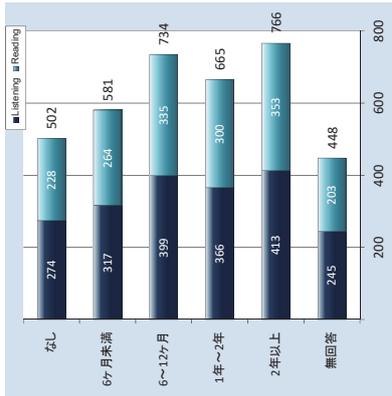


# 【報告資料7】



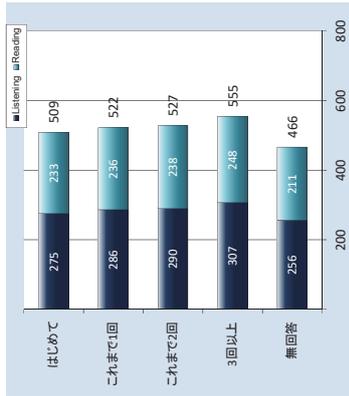
【海外滞在経験別スコア】

人数	Listening	Reading	Total
77,839	274	228	502
18,896	317	264	581
791	399	335	734
379	366	300	665
893	413	353	766
863	245	203	448



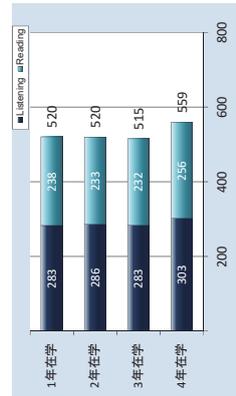
【TOEIC® L&R受験回数別スコア】

人数	Listening	Reading	Total
43,436	275	233	509
27,079	286	236	522
12,689	290	238	527
15,064	307	248	555
893	256	211	466



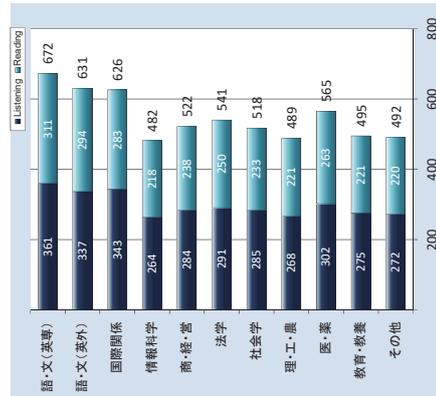
【学年別スコア】

人数	Listening	Reading	Total
54,073	263	238	520
20,386	286	233	520
19,202	283	232	515
5,500	303	256	559



【専攻別スコア】

人数	Listening	Reading	Total
3,402	361	311	672
5,469	337	294	631
5,666	343	288	626
5,740	264	218	482
8,757	284	238	522
1,979	291	250	541
2,863	285	233	518
40,235	268	221	489
6,861	302	263	565
12,641	275	221	495
5,568	272	220	492



TOEIC® L&R IPテスト 学校(大学)

(注) Listening+Reading+Totalスコアの平均値は各々計算し表示された値の1つ下の位の小数点を四捨五入しています

(注) %の値は0.1%の位を四捨五入しているため表示された値が0%の場合でもデータが存在する(グラフ上で表示される)可能性があります

EBS, the EBS logo, PROPELL, TOEIC and TOEIC BRIDGE are registered trademarks of EBS, Princeton, New Jersey, USA, and used in Japan under license. Portions are copyrighted by EBS and used with permission.



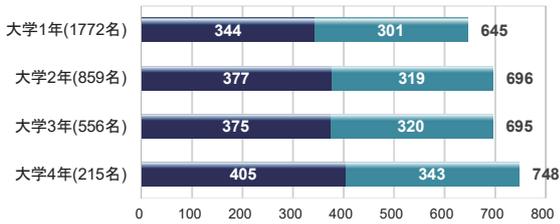
一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会

IPテスト 学校データ

【2020年度 国公立】大学専攻・学年別受験者数と平均スコア

※大学内で実施されたIPテスト受験者のうち、「学校(大学)・学歴(1~4年)」・「専攻」マーク欄に記入されたデータを集計

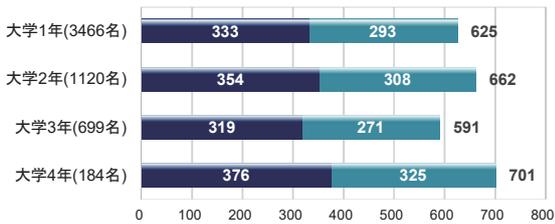
語学・文学系(英語専攻) (計 3,402 人)  
平均スコア Listening 361 点 Reading 311 点 Total 672 点



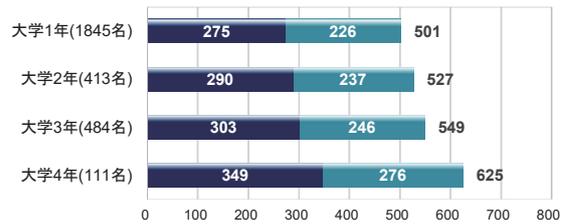
法学系 (計 1,979 人)  
平均スコア Listening 291 点 Reading 250 点 Total 541 点



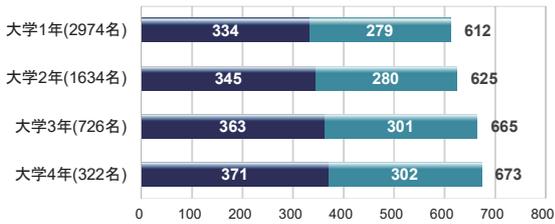
語学・文学系(英語専攻以外) (計 5,469 人)  
平均スコア Listening 337 点 Reading 294 点 Total 631 点



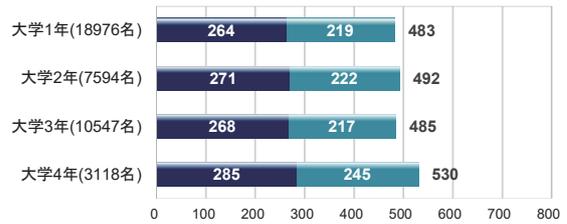
社会学系 (計 2,853 人)  
平均スコア Listening 285 点 Reading 233 点 Total 518 点



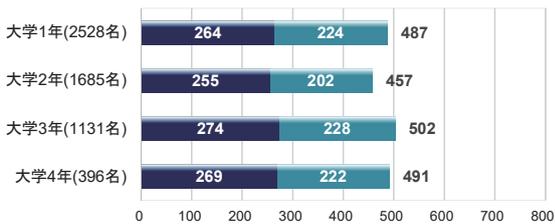
国際関係学系 (計 5,656 人)  
平均スコア Listening 343 点 Reading 283 点 Total 626 点



理・工・農学系 (計 40,235 人)  
平均スコア Listening 268 点 Reading 221 点 Total 489 点



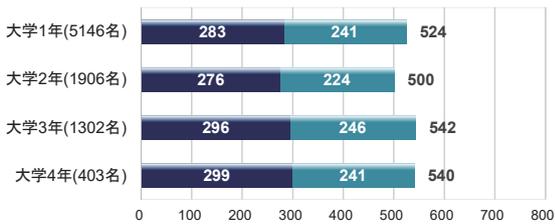
情報科学系 (計 5,740 人)  
平均スコア Listening 264 点 Reading 218 点 Total 482 点



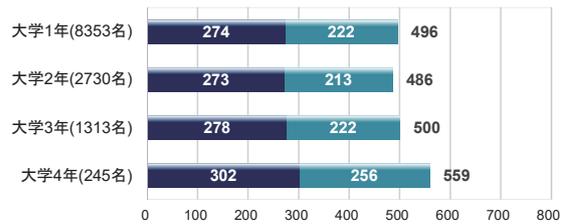
医・薬学系 (計 6,861 人)  
平均スコア Listening 302 点 Reading 263 点 Total 565 点



商学・経済・経営系 (計 8,757 人)  
平均スコア Listening 284 点 Reading 238 点 Total 522 点



教育・教養系 (計 12,641 人)  
平均スコア Listening 275 点 Reading 221 点 Total 495 点



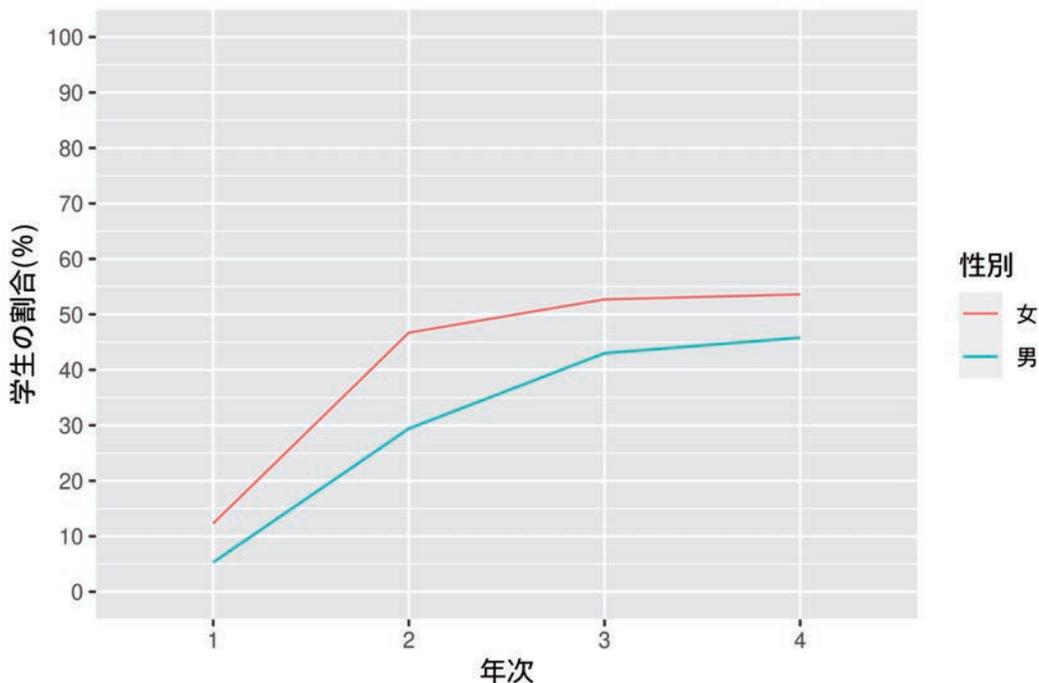
# 外国語による授業を履修した学生の割合

[参考資料1]

今回は、外国語による授業の履修について検証しました。本学は文部科学省のスーパーグローバル大学創成支援事業において世界レベルの教育研究を行うトップ大学（タイプA）に採択されており、外国語による授業を増やすことを目標としています。外国語による授業とは日本語以外の言語で行う授業のことです。シラバスにおいて、「英語で授業」「ロシア語で授業」など外国語で授業を行うことが示されている授業のほか、「英語と日本語で対応」「要望があれば英語で授業」と示されている授業も、外国語による授業としました。英語や第二外国語の授業などの外国語自体を学ぶ授業であっても、日本語で行われる授業の場合は外国語による授業には含みません。一方、専門科目の授業であっても、外国語で行われる授業の場合は外国語による授業に含みます。学群の授業全体に占める外国語による授業は、2013年度は5.5%（409科目）でしたが、2020年度には9.2%（568科目）に増加しています。このように外国語による授業の開講が増える中で、どの程度の学生が外国語による授業を履修しているのでしょうか？ この問いに答えるべく、2018年度春に学群に入学した学生（2176人。英語プログラムの学生を含む秋入学の学生は分析に含めない）のデータを用いて、外国語による授業を履修した学生の割合を調べました。

下の図は、入学から各年次の終了時まで外国語による授業を1つでも履修登録したことのある学生の割合を、男女別に示したものです。各年次に履修登録したかどうかではなく入学から各年次終了時までの累積であるという点と、履修登録をしたかどうかであり単位を取得したかどうかではない点に注意してください。

この図から次のことがわかります。男女とも、外国語による授業を履修登録する学生の割合は2年次に大きく高まります。女子はどの学年でも男子と比べて外国語による授業を履修登録する割合が高く、特に2年次にその差は拡大しますが、男子は3年次に履修登録する割合が高まり、3・4年次で男女差は縮小します。4年終了時に外国語による授業の履修登録経験を持つ学生の割合は、女子では53.6%（474人）、男子では45.8%（592人）、男女全体では49.0%（1066人）です。今後の分析では、外国語による授業の履修授業数の分布、学生の所属学類による履修の特徴、外国語による授業の履修とTOEICスコアとの関係について、分析を進めていきたいと思っております。



出所：SGU 外国語による授業科目データ、TWINS 履修登録データ、KdB 開設科目データ。本分析は2018年度学群入学生データ（男子1292人、女子884人、計2176人）を用いた。英語プログラムの学生を含む秋入学生、編入学生は分析に含めなかった。

※筑波大学教学マネジメント室における教学 IR 活動で試行的分析を行った結果（教学マネジメント室会議で報告された資料を抜粋）

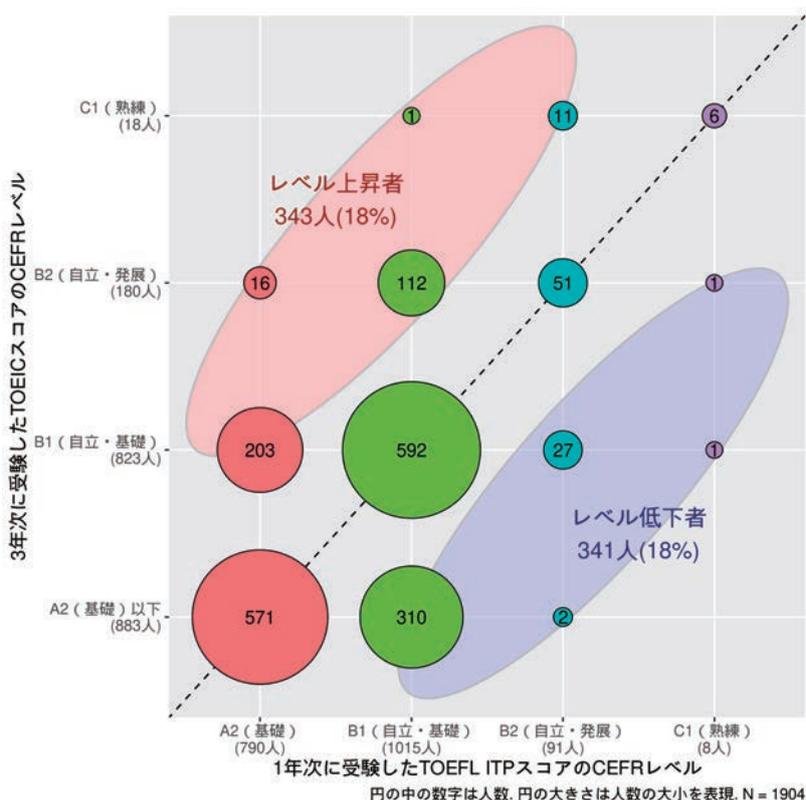
# 大学入学後の英語力の変化について

[参考資料2]

今回は、学群学生の大学入学後の英語力の変化について検証しました。学生は大学入学後、英語力を伸ばしているのでしょうか、それとも低下させているのでしょうか？ この問いに答えるべく、この分析では、2018年度に入学した学群入学生のデータ（調査対象数: 1,904人）を用いて、1年次に受験したTOEFL ITPスコアと3年次に受験したTOEICスコアの関連性を調べました。

下の図の横軸は、1年次に受験したTOEFL ITPスコアをCEFRレベルに換算したものです。縦軸は、3年次に受験したTOEICスコアをCEFRレベルに換算したものです。1年次と3年次に受験した試験が異なるため、CEFRに換算しました。CEFR（Common European Framework of Reference for Languages）とは、外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠のことで、基礎段階から熟練段階までA1、A2、B1、B2、C1、C2のレベルがあり、TOEFL ITPとTOEICのスコアはA2からC1に換算できます。1年次・3年次のスコアが共にA2の人は、一番左の列の一番下の行の円で表しています。円内の数字は人数を、円の大きさは人数の大小を示しており、このカテゴリに該当する人は571人です。斜めの点線の上の円は、1年次と3年次のCEFRレベルが変わらないことを示します。

3年次に1年次よりもレベルが上昇した人は343人で、全体の18%です。一方、3年次に1年次よりもレベルが低下した人は341人で、全体の18%です。大学入学後に英語力を上げた人が約2割いる一方、それと同程度の人が英語力を下げていることが明らかになりました。全体の傾向では、1年次にはB1が最頻値（1015人）ですが、3年次の最頻値はA2（883人）であり、1年から3年の間に英語力が低下する傾向が見られます。一方で、B2、C1の人数は1年次から3年次の間に増えており、高いレベルの英語力を持つ人も増えています。なお、1年次に受験したけれども3年次に受験していない人は328人おり、学類ごとの3年次の受験率には差があります。どのような人が英語力を高めたか、低めたかについて、今後の分析で取り組んでいきたいと思えます。



出所：CEGLOC. 本分析は2018年度学群入学生データを用いた。

※筑波大学教学マネジメント室における教学 IR 活動で試行的分析を行った結果（教学マネジメント室会議で報告された資料を抜粋）

令和3年度(2021.4~2022.3)  
教育戦略推進プロジェクト支援事業  
外国語活動認定の制度化と「筑波式統合言語学習」の推進  
最終報告書(3年目)

令和4年3月20日

監修 白山利信  
編集 白山利信、梶山祐治  
発行者 白山利信  
発行所 筑波大学 グローバルコミュニケーション教育センター  
(CEGLOC)

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1

Tel. 029-853-2426 Fax. 029-853-6616

Web: <http://www.cegloc.tsukuba.ac.jp/>

印刷・製本 株式会社アイネクスト

学内関係者限り